

ピアノを弾く

いろいろな音で弾く

6 ページ

このピアノにはたくさんの音色が内蔵されています。
いろいろな音色を選んでみましょう。
音色名は「音色一覧」(P.26)をご覧ください。

2つの音色を重ねて弾く (デュアル)

7 ページ

1つの鍵盤で2つの音色を重ねて鳴らすことができます。

右手と左手を違う音色で弾く (スプリット)

7 ページ

鍵盤を左右に分けて、それぞれ別の音色を選んで鳴らすことができます。

ライブで弾く

音質を調整する (イコライザー)

6 ページ

演奏する場所に応じて調整することができます。

演奏の設定を呼び出す (レジストレーション)

14 ページ

レジストレーションに設定を保存しておくことで、曲に合わせた設定を瞬時に呼び出すことができます。

便利な機能

演奏を録音する

10 ページ

演奏を録音することができます。

Bluetooth 機能

17 ページ

音楽の楽しみかたを広げるアプリを使ったり、スマートフォンのオーディオを再生したりできます。

自分だけのピアノを作る (ピアノデザイナー)

13 ページ

グランドピアノの音の要素を調節して、好みのピアノの音を作ることができます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

はじめにお読みください

基本操作

このピアノは、操作パネルのボタンを使って各機能の設定ができます。

画面に表示される「◀」「▶」「-」「+」「Enter (Func)」 「Exit」 は、各機能を設定するときに操作するボタンを表しています。



上段：設定するカテゴリーを表示
([◀] [▶] ボタンで変えられます)

下段：カテゴリー内の値を表示
([−] [+] ボタンで変えられます)



設定するカテゴリーを選ぶ

[◀] [▶] ボタンで設定したいカテゴリーを選ぶ。

カテゴリー内の値を選ぶ

[−] [+] ボタンでカテゴリー内の値を変える。

「Enter」と「Exit」

選んだカテゴリーや値を [Function] (Enter) ボタンで決定する。

[Exit] ボタンでひとつ前の操作に戻る。

スタンドに設置する

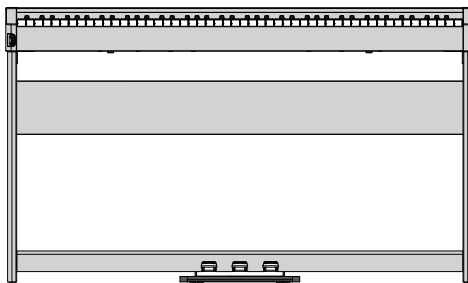
このピアノ (FP-60) をスタンドに設置するときは、当社製のスタンド (別売) KSC-72、KS-G8B、KS-12 をご使用ください。

ご使用になるときは以下のように設置します。

※ スタンドを設置するときは、指などをはさまないよう、十分にご注意ください。

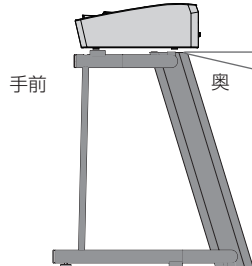
KSC-72 (FP-60 専用スタンド)

KSC-72 の取扱説明書をご覧ください。

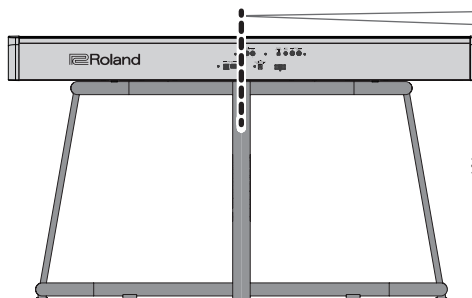
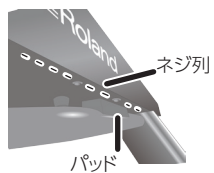


※ ペダル・ボード (KPD-90) は別売です。

KS-G8B



スタンド奥側のパッド部分がピアノ底面のネジ列のすぐ前にくるようにする

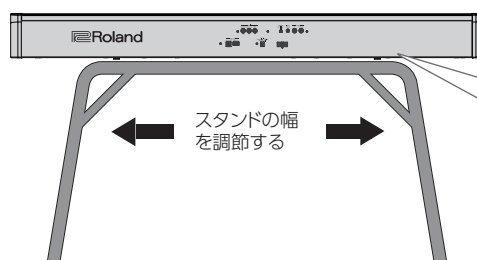


ピアノとスタンドの中心を合わせる

※ 安全のため、スタンドの高さ調節の一番高い位置では使用しないようご注意ください。

KS-12

※ 安全のため、スタンドの高さ調節の一番高い位置では使用しないようご注意ください。



ピアノ底面のゴム足が、スタンドのくぼみ (4箇所) に入るように、横幅を調節する



目次

はじめにお読みください.....	2
基本操作	2
スタンドに設置する	2
主な仕様	3
各部の名称とはたらき	4
リア・パネル.....	5
操作ガイド	6
応用編.....	10
演奏を録音する.....	10
録音する.....	10
新しく曲を録音する	10
USB メモリーにオーディオ録音する	10
保存した曲を削除する (曲の削除)	11
曲の名前を変更する (曲の名前変更)	12
保存した曲をコピーする (曲のコピー)	12
自分だけのピアノ音色を作る (ピアノデザイナー)	13
演奏の設定を保存する (レジストレーション)	14
レジストレーションとは	14
レジストレーションを呼び出す	14
レジストレーションに保存する.....	14
レジストレーション・セットを保存する (レジストレーション・セット・エクスポート)	15
保存したレジストレーション・セットを読み込む (レジストレーション・セット・インポート)	15
便利な機能.....	16
メモリーを初期化する (メディアのフォーマット)	16
お買い上げ時の設定に戻す (ファクトリーリセット)	16
電源を切っても設定が変わらないようにする (メモリー・バックアップ).....	16
Bluetooth® (ブルートゥース) 機能を使う	17
こんなことができます.....	17
ピアノのスピーカーで音楽を聴く	18
初期設定をする (ペアリング)	18
初期設定済みのモバイル機器を接続する.....	18
オーディオを再生する.....	18
アプリと連携して使う.....	19
ピアノと連携して使えるアプリ例	19
設定をする (ペアリング)	19
譜面表示アプリの譜めくりをペダルで操作する.....	20
初期設定をする (ペアリング)	20
初期設定済みのモバイル機器を接続する.....	20
譜めくりをする.....	20
各種設定	22
いろいろな設定をする (ファンクション・モード)	22
ファンクション・モードの基本操作	22

鍵盤を弾いたときのタッチ感を変える (キー・タッチ) ..	22
他の楽器と音の高さを合わせる (マスターチューニング)	22
調律法を変える (調律法)	22
調律の主音を設定する (調律法主音)	22
イコライザーの設定を変える.....	22
オーディオ再生機器や Bluetooth オーディオの音量を 調節する (インプット／Bluetooth ボリューム)	23
曲 (SMF 形式) 再生時の鍵盤の音色を設定する (SMF 再生モード)	23
録音するときの形式を選ぶ (録音モード).....	23
ペダルの効果のかけかたを変える (右ペダル・パート) ..	23
ペダルのはたらきを変える (中央ペダル機能)	23
ペダルの効果のかけかたを変える (中央ペダル・パート).....	23
ペダルのはたらきを変える (左ペダル機能).....	23
ペダルの効果のかけかたを変える (左ペダル・パート) ..	24
ペダルでレジストレーションを切り替える (レジストレーション・ペダル・シフト)	24
音色の切り替え情報を送る (MIDI 送信の情報)	24
シーケンサーとつないだときの 2 度鳴りを防ぐ (ローカル・コントロール)	24
MIDI 送信チャンネルを変える (MIDI 送信チャンネル) ..	24
ディスプレイの明るさを調節する (ディスプレイ・コントラスト)	24
ボタンの明るさを変更する (パネル・ブライツネス) ..	24
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (オートオフ)	24
故障かな?と思ったら	25
こんな表示が出たら (エラー・メッセージ)	26
音色一覧	26
ピアノに保存される設定.....	27
安全上のご注意	28
使用上のご注意	28

主な仕様

ローランド FP-60 : デジタル・ピアノ

	FP-60
音源	ピアノ音 : スーパーナチュラル・ピアノ音源
鍵盤	88 鍵 (PHA-4 スタンダード鍵盤 : エスケープメント付、象牙調)
Bluetooth 機能	オーディオ : Bluetooth 標準規格 Ver 3.0 (SCMS-T 方式によるコンテンツ保護に対応) MIDI、譜めくり : Bluetooth 標準規格 Ver 4.0
電源	AC アダプター
消費電力	5W (4W ~ 22W)
外形寸法	譜面立てをはずしたとき : 1,291 (幅) × 344 (奥行) × 125 (高さ) mm 専用キーボード・スタンド KSC-72 (別売)、譜面立てを含む : 1,291 (幅) × 382 (奥行) × 944 (高さ) mm
質量	19.0kg (譜面立てを含む) 32.7kg (専用スタンド KSC-72 および KPD-90 (別売)、譜面立てを含む)
付属品	取扱説明書、「安全上のご注意」チラシ、保証書、ローランド ユーザー登録カード、AC アダプター、電源コード、ダンパー・ペダル (DP-10、連続検出対応)

	FP-60
別売品	専用キーボード・スタンド : KSC-72 専用ペダル・ボード : KPD-90 キーボード・スタンド : KS-G8B、KS-12 ペダル・ユニット : RPU-3 ダンパー・ペダル : DP シリーズ ペダル・スイッチ : DP-2 エクスプレッション・ペダル : EV-5 USB メモリー (※ 1) ※ 1 : 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

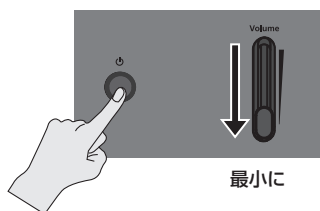
Nederlands

各部の名称とはたらき

[⏻] ボタン

電源を入れる

1. [Volume] スライダーを下いっぱいまで動かして、音量を最小にします。



2. ディスプレイに「Roland Digital Piano」と表示されるまで、[⏻] スイッチを押し続けます。

電源が入り、音色ボタンなどのボタンが点灯します。

3. [Volume] スライダーで、音量を調節します。

電源を切る

1. [Volume] スライダーを下いっぱいまで動かして、音量を最小にします。

2. ディスプレイに「Don't disconnect the power.」と表示されるまで、[⏻] スイッチを押し続けます。

電源が切れます。

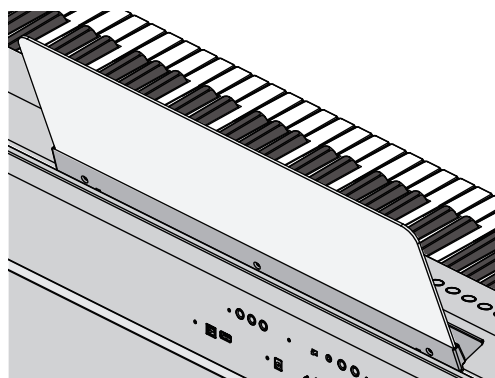
※ 画面に「Don't disconnect the power.」と表示されている間は、電源コードを抜かないでください。

オートオフ機能について

このピアノは、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（オート・オフ機能）。自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください（P.24）。

- 電源が切れると保存されていない設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください（P.27）。
- 電源をオンにするときは、電源を入れ直してください。

譜面立ての取り付けかた



1. ピアノ本体上面のスリットに、譜面立てを差し込みます。



フロント・パネル

ディスプレイに表示された項目を選んで、ピアノを操作します。

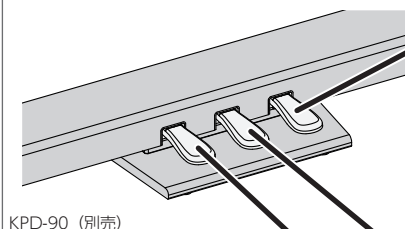
6 ページ

ヘッドホン端子

ヘッドホン（別売）をつなぎます。



ペダル (KPD-90 / RPU-3: 別売)



KPD-90 (別売)

ダンパー・ペダル

音に余韻を与えたいときに使います。このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音が切れずに長い余韻が続きます。

アコースティック・ピアノのダンパー・ペダルの以下のような特長を再現しています。

- 踏み込み始めは軽く、途中から重くなる感触の変化（KPD-90 のみ）
- 弾いた鍵盤の音が、他の弦に共鳴して加わる豊かな響きと広がり
- 踏み込み具合を調節し音の反響を加減する「ハーフ・ペダル奏法」で、音の芯（しん）がすぐに消えて豊かな広がりと響きだけが残る独特な余韻

ソステヌート・ペダル

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻を与えます。

ソフト・ペダル

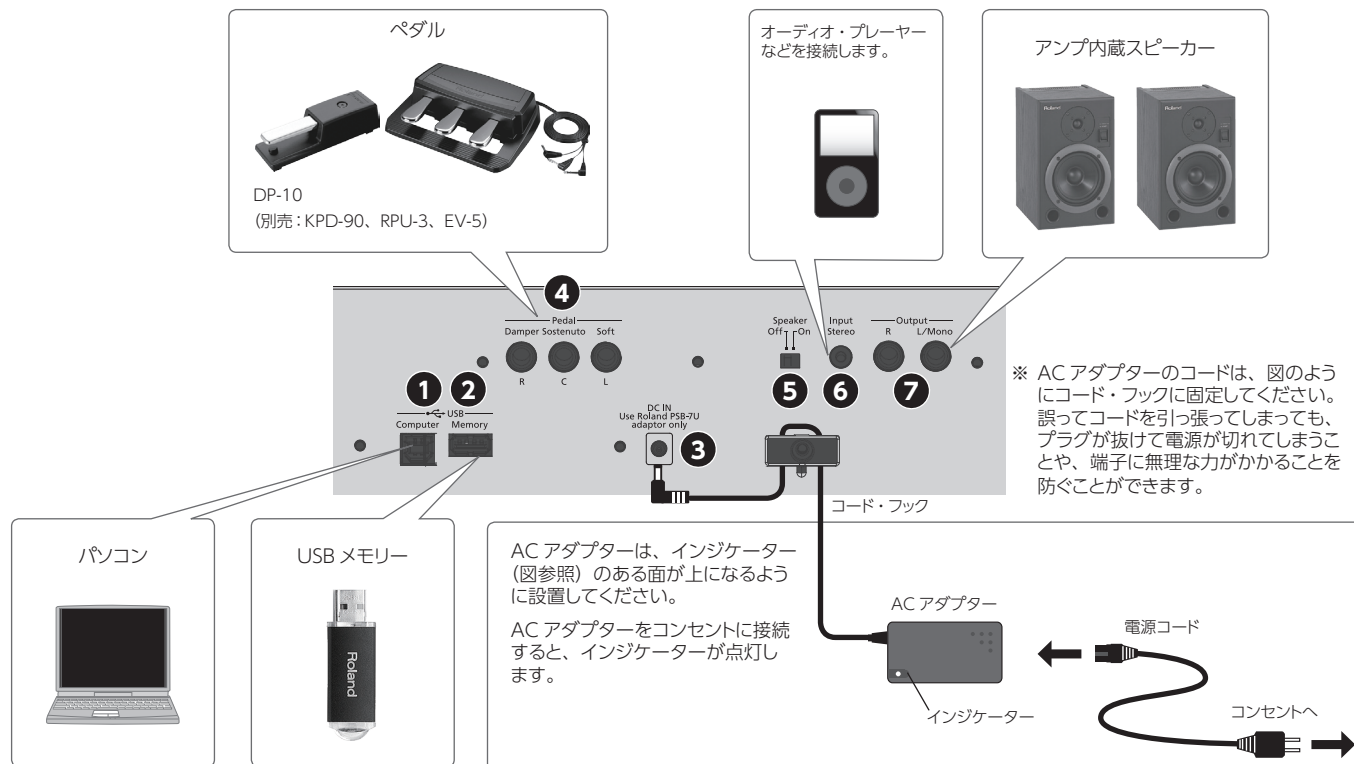
音に柔らかさを与えたいときに使います。このペダルを踏んだまま鍵盤を弾くと、通常同じ強さで弾いたときの音よりも柔らかい音が出ます。グランドピアノの左側のペダルと同じはたらきです。ペダルを踏む深さによって、音の柔らかさが微妙に変わります。

RPU-3 (別売)

※ ペダルを操作するときは、可動部と本体の間に指をはさまないようにしてください。お子様のいる場所で使用する場合はご注意ください。

リア・パネル

ペダルや USB メモリーなどをつなぎます。



1 USB Computer 端子

市販の USB ケーブルを使用して、ピアノとお使いのパソコンをつなぐと、MIDI に対応したソフトウェアでピアノの演奏を録音/再生することができます。

2 USB Memory 端子

USB メモリーを使うと、以下のことができます。

- パソコンにある WAVE ファイル、MP3 ファイル、MIDI ファイル (SMF) をピアノで再生できます。
- ピアノの演奏をオーディオ録音できます。
- レジストレーション・セットの保存や読み込みができます。

※ USB メモリーのアクセス・ランプが点滅している間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーや電源コードを抜いたりしないでください。

※ 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

3 DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

4 Pedal Damper/Sostenuto/Soft 端子

ペダルをつなぎます。

※ Pedal Damper 端子には、指定のペダル以外は接続しないでください。

※ EV-5 は、Pedal Sostenuto/Soft 端子にのみ対応しています。

5 Speaker [Off/On] スイッチ

本体スピーカーを鳴らす (On) / 鳴らさない (Off) を設定します。

6 Input Stereo 端子

オーディオ・プレーヤーなどを接続します。

※ 抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、Input Stereo 端子に接続した機器の音量が小さくなる場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。

7 Output R、L/Mono 端子

ピアノの音を、アンプ内蔵スピーカーなどにつないで出力することができます。

操作ガイド

基本操作

設定項目を選ぶ	[◀] [▶] ボタンを押す。
項目内の値を変える	[-] [+] ボタンを押す。
値を初期値に戻す	[-] [+] ボタンを同時に押す。
操作をキャンセルする	[Exit] ボタンを押す。



音色を選ぶ (Single : シングル)

このピアノでは、ピアノやピアノ以外のさまざまな音色で演奏を楽しむことができます。音色は6つのグループがあり、それぞれ音色ボタンで選びます。

音色を選ぶ

1. [Piano] ボタンなどの音色ボタンを押してから、[-] [+] ボタンを押す。

ディスプレイの見かた



音色のグループ

[Piano] ボタン	グランドピアノやハープシコードなど、ピアノの歴史を彩る楽器の音色が選べます。
[E. Piano] ボタン	ポップスやロックで多用されるエレクトリック・ピアノの音色が選べます。

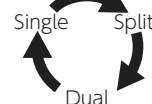
[Strings] ボタン	バイオリンなどの弦楽器の音を中心に、オーケストラで用いられる楽器の音色や、ピアノ音色とのデュアル演奏に適した音色が選べます。
[Organ] ボタン	オルガンの音色が選べます。 ロータリー効果のかかる音色を選んでいるときに [Organ] ボタンを押すと、ロータリー効果のうねりの速さが変わります。
[Pad] ボタン	シンセ・パッドの音色が選べます。
[Other] ボタン	ボーカル、プラス (金管楽器)、GM2 音色などの音色が選べます。

メモ

トレモロなど、揺らぎの効果がかかる音色を選んでいるときに、選んでいる音色ボタンを押しながら Tempo [Slow] [Fast] ボタンを押すと、揺らぎの速さを調節できます。

音色を試聴する (音色デモ)

1. [Split/Dual] ボタンを押しながら、[Transpose] ボタンを押す。
 2. 音色ボタンのいずれかを押す。
- 各ボタンの音色デモを再生します。



鍵盤の音量バランスを変える (Part Volume)

左手と右手を違う音色で演奏 (Split) するとき、2つの音色を重ねて演奏 (Dual) するとき、鍵盤の音量バランスを調節することができます。

	[Lower] スライダー	[Upper] スライダー
通常演奏のとき	使いません	鍵盤の音量を調節します。
左手と右手を違う音色で演奏するとき (Split)	鍵盤が分かれる位置 (スプリット・ポイント) より低い音域の音量を調節します。	鍵盤が分かれる位置 (スプリット・ポイント) より高い音域の音量を調節します。
2つの音色を重ねて演奏するとき (Dual)	音色2の音量を調節します。	音色1の音量を調節します。

全体の音量を調節する (Volume)

本体スピーカー使用時はスピーカーの音量、ヘッドホン接続時はヘッドホンの音量を調節することができます。

音質を調節する (Equalizer)

Low (低音域)、Mid (中音域)、High (高音域) のそれぞれで、サウンドを強調したり抑えたりすることができます。

22 ページ

音の響きを調節する (Ambience)

音にコンサート・ホールで演奏しているような響きをつけることができます。

1. [Ambience] ボタンを押す。
2. [-] [+] ボタンを押す。

音の響きを調節します。数字が大きいほど音の響きが深くなり、数字が小さいほど音の響きは浅くなります。

メモ

[▶] (右) ボタンを押すと、ヘッドホンから聞こえる音にピアノ本体から聞こえるような効果 (Headphones 3D Ambience) を ON / OFF する画面が表示されます。

移調して演奏する (Transpose)

鍵盤や曲を半音単位で移調することができます。

ドミソと弾くと→ミソシと鳴る



たとえば、木長調 (E) の曲をハ長調 (C) の鍵盤の位置で弾く場合は、鍵盤のトランスポーズを「4」に設定します。

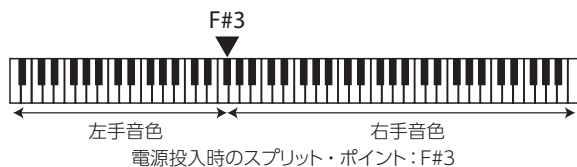
	-6 ~ 0 ~ +5 (初期値 : 0)
鍵盤の移調 (Kbd Transpose)	メモ [Transpose] ボタンを押しながら、移調したい調の主音にあたる鍵盤を押して、鍵盤の移調の値を変えることもできます。
曲の移調 (Song Transpose)	-12 ~ 0 ~ +12 (初期値 : 0)

左手と右手で違う音色にする (Split: スプリット)

たとえば、左手はベースの音、右手はピアノの音で演奏するなど、ある鍵を境に鍵盤右側と左側のそれぞれで違う音色で演奏することができます。

このような演奏を「スプリット演奏」といい、鍵盤が分かれる位置を「スプリット・ポイント」といいます。

スプリットをオンにする	[Split/Dual] ボタンを何度か押して、Split 画面を表示させます。
右手音色、左手音色を変える	1. [◀] [▶] ボタンで、「Right Tone」または「Left Tone」を選ぶ。 2. 音色ボタンを押す。 3. [-] [+] ボタンを押す。
スプリット・ポイント (Split Point)	メモ [Split/Dual] ボタンを押しながら分割する位置の鍵盤を押して、スプリット・ポイントを設定することもできます。 B1 ~ B6 (初期値: F#3)
右手、左手シフト (Right Shift, Left Shift)	右手もしくは左手音色の音の高さをオクターブ単位で変えます。 -3 ~ 0 ~ +3 (初期値: 0)



※ 音色の組み合わせによっては、左手音色にエフェクトがかからないため、音色の聞こえかたが変わることがあります。

※ 左手音色に [Piano] ボタンの音色を選ばと、聞こえかたが変わることがあります。

2つの音色を重ねる (Dual: デュアル)

1つの鍵盤で、2つの音色を同時に重ねて鳴らすことができます。このような演奏を「デュアル演奏」といいます。

デュアルをオンにする	[Split/Dual] ボタンを何度か押して、Dual 画面を表示させます。 メモ 2つの音色ボタンを同時に押して、デュアル演奏することもできます (シングル時のみ)。
音色 1、音色 2 を変える	1. [◀] [▶] ボタンで、「Tone 1」または「Tone 2」を選ぶ。 2. 音色ボタンを押す。 3. [-] [+] ボタンを押す。
音色 1、音色 2 シフト (Tone 1 Shift, Tone 2 Shift)	音色 1、音色 2 の音の高さを、オクターブ単位で変える。 -3 ~ 0 ~ +3 (初期値: 0)

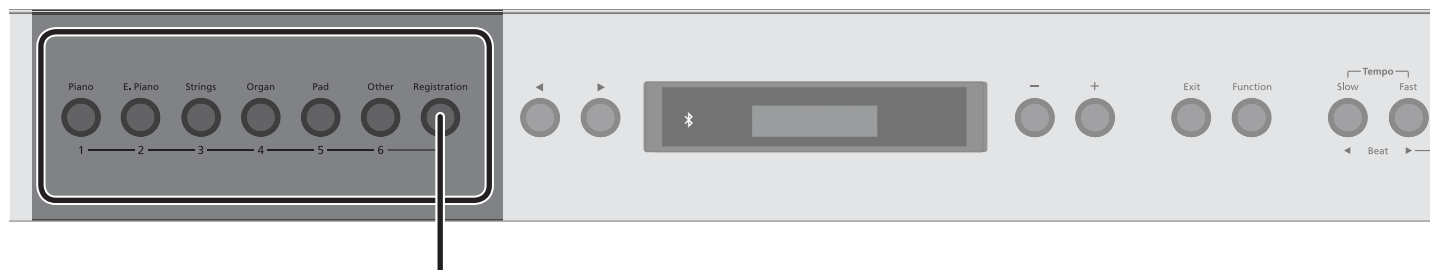
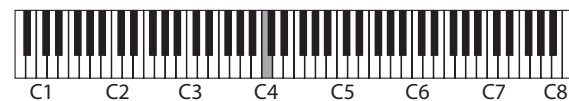
※ 音色の組み合わせによっては、音色 2 にエフェクトがかからないため、音色の聞こえかたが変わることがあります。

※ 音色 2 に [Piano] ボタンの音色を選ばと、聞こえかたが変わることがあります。

音名 (C4 など) の読みかた

スプリット・ポイントなどの設定値のアルファベットは、音名を表しています。A = う、B = し、C = ド・・・G = ンになります。

たとえば、「C4」の場合は、鍵盤の左端から「4 番目のド」を表します。



演奏の設定を呼び出す (Registration)

よく使う音色や演奏に関する設定を「レジストレーション」に保存しておくことができます。

レジストレーションを切り替えることで、保存した設定をすぐに呼び出すことができます。

14 ページ

レジストレーションを呼び出す

1. [Registration] ボタンを押す。
2. [1] ~ [6] ボタンを押して、レジストレーションを選ぶ。
3. [-] [+] ボタンで、レジストレーションのバリエーションを選ぶ。

レジストレーションに設定を保存する

1. 音色をお好みの設定にする。
2. [Registration] ボタンを押し続けたまま [1] ~ [6] ボタンを押し、続けて [-] [+] ボタンで、保存先のレジストレーションを選ぶ。
3. [-] [+] ボタンと [◀] [▶] ボタンで、レジストレーションに名前をつける。
4. [Function] ボタンを押す。

参照

電源を切っても保存される設定については、「ピアノに保存される設定」(P.27) をご覧ください。

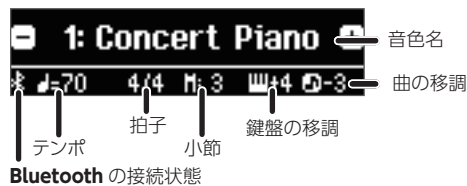


ディスプレイ

音色名、曲名、テンポ、拍子などを表示します。

画面に表示される「◀」「▶」「-」「+」は、各機能を設定するときに操作するボタンを表しています。

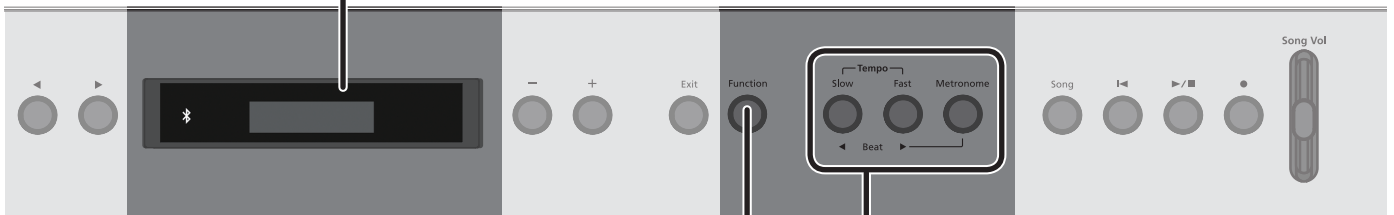
表示の見かた (シングル)



左手と右手で違う音色を設定したとき (スプリット)



2つの音色を重ねる設定をしたとき (デュアル)



いろいろな設定をする (ファンクション・モード)

ピアノの詳細設定をします。

1. [Function] ボタンを押す。
2. [◀] [▶] ボタンで、設定したい項目を選ぶ。
3. [-] [+] ボタンで、項目内の値を変える。

メトロノームを鳴らす

メトロノームを鳴らしながら、演奏することができます。
メトロノームのテンポや拍子を変えることもできます。

※ 曲の再生中は、メトロノームはその曲のテンポや拍子に合わせて鳴ります。

メモ

[◀] [▶] ボタンで、設定する項目を選ぶことができます。

[-] [+] ボタンで、項目内の値を変えることができます。



メトロノームを鳴らす	[Metronome] ボタンを押してオンにする。
テンポを変える	Tempo [Slow] [Fast] ボタンを押す。 10 ~ 500
拍子 (Beat)	メトロノームの拍子を変えます。 メモ [Metronome] ボタンを押しながら Tempo [Slow] [Fast] ボタンを押しても、拍子を変えることができます。 2/2、3/2、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、8/8、9/8、12/8 (初期値: 4/4)
強拍 (Metronome Down Beat)	1 拍目に強い音 (強拍) を鳴らす。 Off, On (初期値: On)
パターン (Metronome Pattern)	メトロノームのパターンを変える。 Off、8 分音符、3 連符、シャッフル、16 分音符、2 拍 3 連、4 分音符、付点 8 分音符 (初期値: Off)
メトロノームの音量 (Metronome Volume)	メトロノームの音量を変える。 Off、1 ~ 10 (初期値: 5)
音色 (Metronome Tone)	メトロノームの音色を変える。 Click、Electronic、Voice (Japanese)、Voice (English) (初期値: Click)

曲を選ぶ

再生する曲を選びます。

1. [Song] ボタンを押して、画面を表示する。



2. [◀] [▶] ボタンで、カテゴリーを選ぶ。
3. [–] [+] ボタンで、曲を選ぶ。
4. [▶/■] ボタンを押して、曲を再生する。

メモ

USB メモリーのフォルダーの中にある曲を選ぶときは、以下の操作をします。

フォルダーに入る	[–] [+] ボタンでそのフォルダーを選んでから、[▶/■] ボタンを押す。
フォルダーから抜ける	[–] ボタンで「(Up)」を選んでから、[▶/■] ボタンを押す。

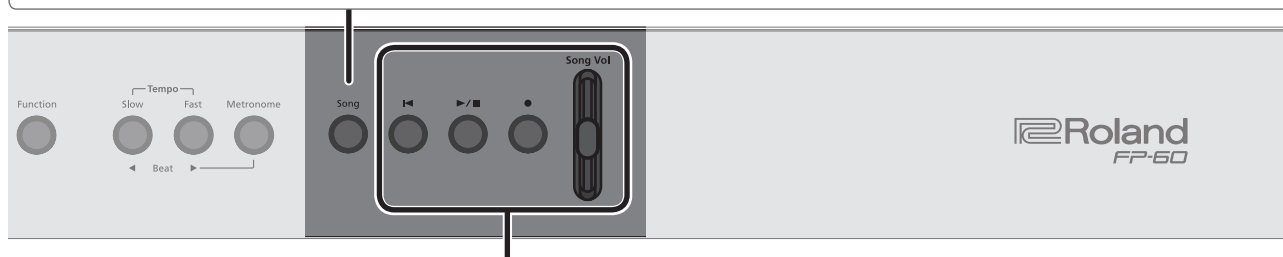
カテゴリー一覧

カテゴリー	説明
USB Memory	USB メモリーに保存した曲
Internal Memory	内部メモリーに保存した曲
Preset Songs	曲名
	作曲者
	Singing Winds (オリジナル)
	Melancolie (オリジナル)
	City Lights (オリジナル)
	The Nutcracker "Waltz of the Flowers" (Jazz Arrangement) * チャイコフスキー オリジナル編曲
	くるみ割り人形より「花のワルツ」 (ジャズ・アレンジ)
	Floral Pursuits * ドリーブ オリジナル編曲
	Swan-derful Samba * チャイコフスキー オリジナル編曲
	Windy Afternoon (オリジナル)
	The Marriage of Figaro "Overture" モーツァルト
	フィガロの結婚より「序曲」
	Widmung S.566 R.253 シューマン リスト編曲
	獻呈
	Étude, op.10-12 ショパン
	革命のエチュード

※ これらの内蔵曲を個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

※ SMF 再生モード (P.23) を「Auto-Select」または「Internal」に設定しているときは、[Song Vol] スライダーで音量が変わらないパートがあります。SMF 再生モードを「External」に設定すると、すべてのパートの音量が変化します。

※ (*) マークの付いている曲は、ローランド株式会社によるアレンジです。著作権はローランド株式会社が所有しています。



再生する／録音する

曲を再生／録音します。

曲の先頭に戻す	[◀] ボタンを押す。
再生／停止する	[▶/■] ボタンを押す。
録音待機にする	停止中に [●] ボタンを押す。
録音する	録音待機中に [▶/■] ボタンを押す。
カテゴリー内の曲を全曲再生する (オール・ソング・プレイ)	[Song] ボタンを押しながら [▶/■] ボタンを押す。
曲のテンポを変える	Tempo [Slow]、[Fast] ボタンを押す。
曲のテンポを一定にして再生する (テンポ・ミュート)	[▶/■] ボタンを押しながら Tempo [Slow] または [Fast] ボタンを押す。 テンポ・ミュートを解除するときは、もう一度 [▶/■] ボタンを押しながら Tempo [Slow] または [Fast] ボタンを押す。
カウント・イン (*) を鳴らす	[Metronome] ボタンを押しながら [▶/■] ボタンを押す。

*1 カウントを鳴らしてから曲を再生することを「カウント・イン」といいます。曲に合わせて演奏するときにカウントを鳴らすことで、曲と自分の演奏のタイミングを合わせやすくなります。

録音する

1. 演奏する音色を選ぶ。
2. [●] ボタンを押す。
3. [▶/■] ボタンを押して、録音を始める。
4. [▶/■] ボタンを押して、停止する。

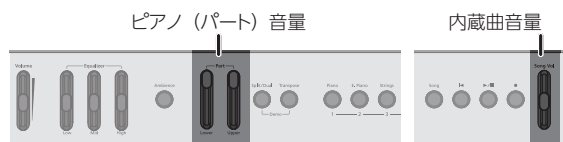
内蔵曲の音量を調節する (Song Vol)

1. [Song Vol] スライダーで、内蔵曲の音量を調節する。

※ 音色デモで使われる一部の音色は、Part [Upper] [Lower] スライダーで調節するように設定されています。すべてのパートを [Song Vol] スライダーで調節する場合は、[SMF Play Mode] (P.23) の設定を「External」に変更してください。

メモ

「Part」スライダーでは、ミキサーのように音量バランスを調節することができます。



このピアノで再生できる曲の形式

このピアノは、以下の形式のデータを再生できます。

- MIDI ファイル：SMF フォーマット 0/1
- オーディオ・ファイル：WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニア
- オーディオ・ファイル：MP3 形式、44.1kHz、64kbps ~ 320kbps

演奏を録音する

このピアノは、録音した演奏を再生して自分の演奏を確認したり、録音した演奏に合わせて演奏したりすることができます。

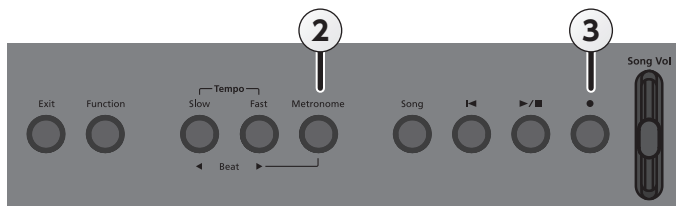
録音する

新しく曲を録音する

SMF 録音

演奏を録音し、このピアノで再生します。

録音の準備



1. 演奏する音色を選びます (P.6)。
2. 必要に応じて、メトロノームを鳴らします (P.8)。
メトロノームのテンポや拍子を設定できます。

メモ

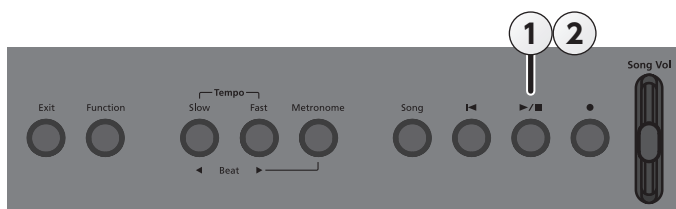
メトロノームのテンポや拍子が曲に記憶され、再生時にも同じテンポと拍子で鳴らすことができます。

3. [●] ボタンを押します。

[●] ボタンが点灯、[▶/■] ボタンが点滅し、録音待機状態になります。

録音を中止するときは、もう一度 [●] ボタンを押します。

録音を始める／保存する



1. [▶/■] ボタンを押します。
2小節のカウント音が鳴ってから(ディスプレイ右下に小節数が「-2」「-1」と表示)、録音が始まります。
カウントが始まると、[●] ボタンと [▶/■] ボタンが点灯します。

メモ

[▶/■] ボタンを押さずに鍵盤を弾くと、そのまま録音を始めます。このときは、カウント音は鳴りません。

2. [▶/■] ボタンを押します。

録音が止まり、演奏が自動で保存されます。

メモ

- 曲を削除することができます (P.11)。
- 曲の名前を変更することができます (P.12)。

ご注意!

画面に「Saving...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

録音した演奏を聴く

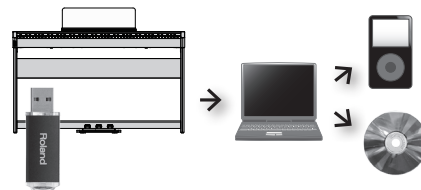
録音後は、録音した曲が選ばれています。

1. [▶/■] ボタンを押します。

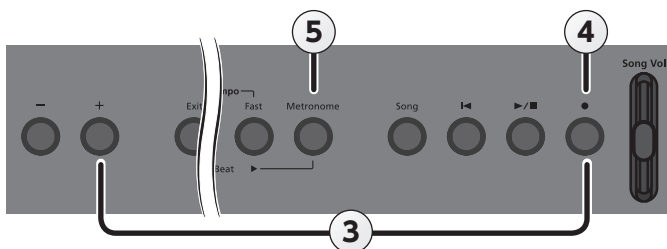
録音した演奏の先頭から、再生が始まります。

USB メモリーにオーディオ録音する オーディオ録音

ピアノで録音した演奏をパソコンやオーディオ・プレーヤーで聴いたり、CDを作成したりしたい場合は、USB メモリーにオーディオ録音します。



録音の準備



1. USB メモリーを USB Memory 端子につなぎます (P.5)。

※ オーディオ・データは、ピアノの内部メモリーに保存できません。

2. 演奏する音色を選びます (P.6)。

3. [●] ボタンを押しながら [+] ボタンを押して、「Audio」を選びます。

メモ

ファンクション・モードの「Recording Mode」から設定することもできます (P.23)。

4. [●] ボタンを押します。

[●] ボタンが点灯、[▶/■] ボタンが点滅し、録音待機状態になります。

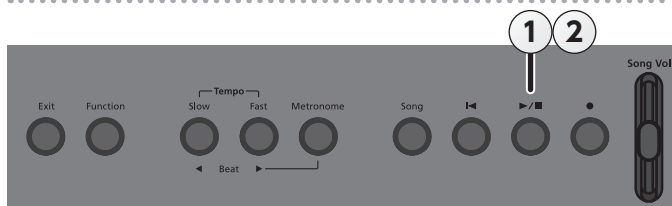
録音を中止するときは、もう一度 [●] ボタンを押します。

ご注意!

録音中は、絶対に電源を切ったり USB メモリーを抜いたりしないでください。

5. 必要に応じて、メトロノームを鳴らします (P.8)。

録音を始める／保存する



1. [▶/■] ボタンを押します。

録音が始まります。

録音が始まると、[●] ボタンと [▶/■] ボタンが点灯します。

2. [▶/■] ボタンを押します。

録音が止まります。

メモ

- 曲を削除することができます (P.11)。
- 曲の名前を変更することができます (P.12)。

録音した演奏を聴く

録音後は、録音した曲が選ばれています。

1. [▶/■] ボタンを押します。

録音した演奏の先頭から、再生が始まります。

保存した曲を削除する (曲の削除)

内部メモリーまたは USB メモリーに保存した曲を削除することができます。

メモ

内部メモリーまたは USB メモリーに保存されているすべての曲を削除するときは、メモリーを初期化してください (P.16)。

※ USB メモリーの曲を削除する場合は、あらかじめ USB メモリーを USB Memory 端子につないでください。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Delete Song」を選びます。



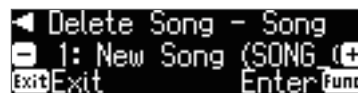
2. [Function] (Enter) ボタンを押します。

Delete Song 画面が表示されます。



3. [-] [+] ボタンで、削除する曲が保存されているメディアを選びます。

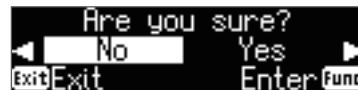
4. [▶] (右) ボタンを押します。



5. [-] [+] ボタンで、削除する曲を選びます。

6. [Function] (Enter) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。



中止するときは [Exit] ボタンを押します。

7. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。

削除が実行されます。

ご注意!

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

8. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

SMF 録音した曲をオーディオに変換する

一度 SMF 録音した曲でも、オーディオ・データに変換することで、パソコンで聴けるようにしたり、CD を作成したりすることができます。

1. オーディオに変換する曲を選ぶ (P.9)。

2. オーディオ録音の準備をする (「録音の準備」(P.10))。

1. USB メモリーをつなぐ。
2. [●] ボタンを押しながら [+] ボタンを押して、「Audio」を選ぶ。
3. [●] ボタンを押す。

3. [▶] (右) ボタンを押して、手順 1 の曲を選ぶ。

4. [▶/■] ボタンを押して、オーディオ録音を始める (「録音を始める／保存する」(P.10))。

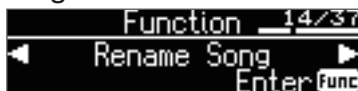
※ 録音中に鍵盤を弾いたり、USB Computer 端子、Input Stereo 端子、Bluetooth オーディオなどから、ピアノに音声が入力されたりすると、その音を含むすべての音に変換されます。

※ SMF によっては、録音したときの状態をそのまま変換できないことがあります。

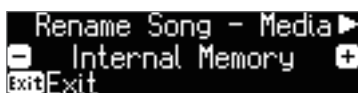
曲の名前を変更する（曲の名前変更）

保存した曲の名前を変更することができます。

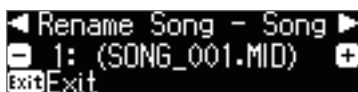
1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Rename Song」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。
Rename Song 画面が表示されます。



3. [-] [+] ボタンで、変更する曲のメディアを選びます。
4. [▶] (右) ボタンを押します。

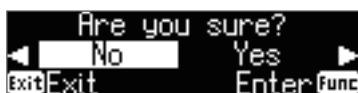


5. [-] [+] ボタンで変更する曲を選び、[▶] (右) ボタンを押します。
6. 名前を変更します。

ボタン	操作内容
[◀] [▶] ボタン	変更する文字を選びます。
[-] [+] ボタン	文字を変更します。

中止するときは [Exit] ボタンを押します。

7. [Function] (Enter) ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止するときは [Exit] ボタンを押します。

8. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
名前の変更を実行します。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

9. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

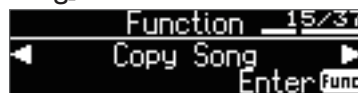
保存した曲をコピーする（曲のコピー）

内部メモリーに保存されている曲を USB メモリーにコピーします。または USB メモリーに保存されている曲を内部メモリーにコピーします。

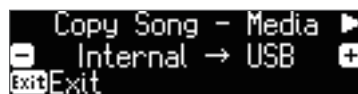
※ オーディオ・ファイルはコピーできません。

※ USB メモリーを USB Memory 端子につないでいない場合は、この操作はできません。

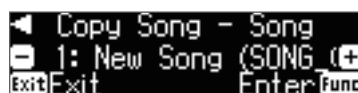
1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Copy Song」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。
Copy Song 画面が表示されます。



3. [-] [+] ボタンで、コピー元とコピー先のメディアを選びます。
4. [▶] (右) ボタンを押します。



5. [-] [+] ボタンで、コピーする曲を選びます。
中止するときは [Exit] ボタンを押します。
6. [Function] (Enter) ボタンを押します。
コピーが実行されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

メモ

すでに同じファイル名の曲が保存されているときは、「Overwrite?」と確認のメッセージが表示されます。曲を上書きするときは [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。

7. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

♪ 自分だけのピアノ音色を作る (ピアノデザイナー)

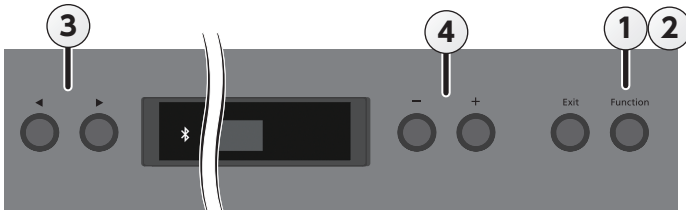
ピアノデザイナーとは

このピアノでは、ピアノの弦、ペダルなどの共鳴音や、ピアノのさまざまな音の要素を調節することにより、好みのピアノの音を作ることができます。
この機能を、「ピアノデザイナー」といいます。



メモ

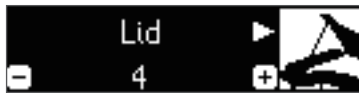
- [Piano] ボタンの音色 (1 ~ 4) のみ、ピアノデザイナーで音色を作ることができます。
- [Piano] ボタンのそれぞれの音色で、設定が保存されます。



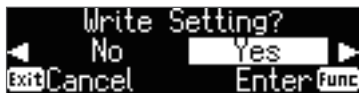
1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Piano Designer」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。
ピアノデザイナー画面が表示されます。



3. [◀] [▶] ボタンで、設定したい項目を選びます。
4. [-] [+] ボタンで、設定値を変えます。
5. ピアノデザイナーを終了するときは、[Exit] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止するときは [Exit] (Cancel) ボタンを押します。

6. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
ピアノデザイナーの設定が保存されます。
設定を保存しないで終了するときは、[◀] (左) ボタンで「No」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。

メモ

「ピアノデザイナー」の設定は、専用のアプリを iPad などのモバイル機器にインストールすることで、モバイル機器の画面から視覚的にわかりやすく操作することができます。
→ 「アプリと連携して使う」(P.19)

ピアノデザイナーで設定できる項目

項目	設定値	説明
Lid	0 ~ 6	グランドピアノの大屋根の開き具合を調節します。 ディスプレイ上のピアノの大屋根が閉じていくほど、柔らかい音になります。 また、ディスプレイ上のピアノの大屋根が開いていくほど明るい音になります。
String Resonance	Off, 1 ~ 10	アコースティック・ピアノの弦共鳴 (鍵盤を弾いたときに、すでに押さえている鍵の弦が共鳴する音) を調節します。 値が大きくなるほど共鳴音が大きくなります。
Damper Resonance	Off, 1 ~ 10	アコースティック・ピアノのダンパー・ペダルを踏んだときの、ピアノ全体のレゾナンス (弾いた鍵盤の音が他の弦に共鳴する音や、本体全体に共鳴する音) を調節します。 値が大きくなるほど共鳴音が大きくなります。
Key Off Resonance	Off, 1 ~ 10	アコースティック・ピアノのキー・オフ音 (鍵盤を離れたときの微妙な音) などの共鳴音を調節します。 値が大きくなるほど減衰時の音質変化が大きくなります。
Single Note Tuning (*1)	-50 ~ 0 ~ +50	高音域はより高く、低音域はより低いピアノ独特の調律手法 (ストレッチ・チューニング) の設定になります。
Single Note Volume (*1)	-50 ~ 0	1 鍵ごとの音量を調節できます。値が小さくなるほど音量が小さくなります。
Single Note Character (*1)	-5 ~ 0 ~ +5	1 鍵ごとの音色を調節できます。値が大きいほど硬い音になり、小さくすると柔らかい音になります。
Reset Setting		選んでいる音色のピアノデザイナーの設定を、工場出荷時の値に戻すことができます。 1. [Function] (Enter) ボタンを押します。 中止するときは [Exit] ボタンを押します。 2. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。 工場出荷時の値に戻ります。

(*1) 88 鍵設定のしかた

1. [Single Note Tuning]、[Single Note Volume]、[Single Note Character] の項目を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
2. 設定する鍵を弾いてから、[-] [+] ボタンで設定値を変えます。

メモ

[◀] [▶] ボタンで、他の 88 鍵設定の項目に移動することができます。

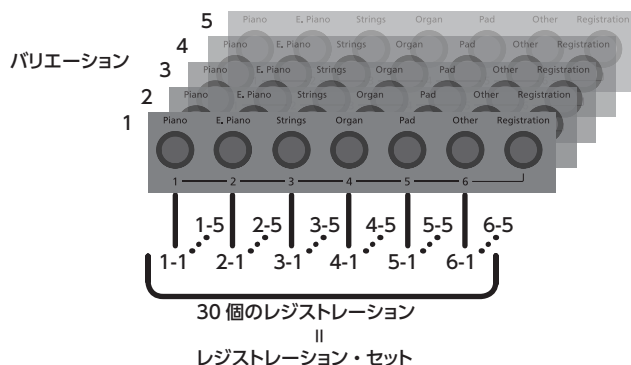
3. [Exit] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻ります。

♪ 演奏の設定を保存する (レジストレーション)

レジストレーションとは

音色の設定、デュアル演奏やスプリット演奏の設定などをまとめて保存したり、呼び出したりすることができる機能です。

レジストレーションは、[1] ～ [6] のそれぞれのボタンに 5 つの合計 30 個保存できます。これら 30 個のレジストレーションをまとめて、「レジストレーション・セット」といいます。

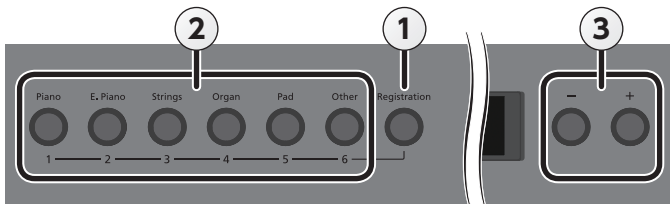


メモ

- レジストレーションに保存される設定については、「ピアノに保存される設定」(P.27) をご覧ください。
- レジストレーション・セットは、USB メモリー (別売) に保存できます (P.15)。

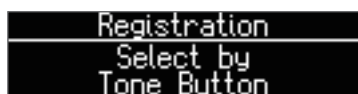
レジストレーションを呼び出す

レジストレーションに保存した設定を呼び出します。

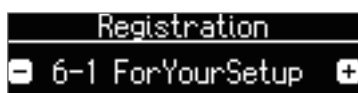


1. [Registration] ボタンを押します。

電源投入後、最初に [Registration] ボタンを押したときは、以下のような画面が表示されます。



2. [1] ～ [6] ボタンを押して、レジストレーションが保存されているボタンを選びます。



3. [-] [+] ボタンで、レジストレーションのバリエーションを選びます。

演奏の設定が切り替わります。

メモ

- ペダルでレジストレーションを呼び出すこともできます (P.24)。
- USB メモリーに保存したレジストレーション・セットを読み込めます (P.15)。

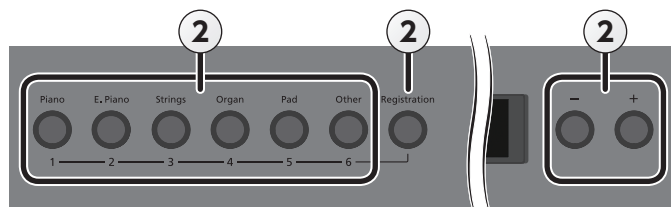
4. [Exit] ボタンを押します。

レジストレーションに保存する

音色の設定などをレジストレーションに保存します。

ご注意!

レジストレーションを保存すると、保存先のレジストレーションは消えてしまいますのでご注意ください。



1. 音色などをお好みの設定にします。

2. [Registration] ボタンを押しながら [1] ～ [6] ボタンを押し、続けて [-] [+] ボタンで、保存先を選びます。

[Registration] ボタンから指を離すと、以下のような画面が表示されます。



3. レジストレーションの名前を変更します。

ボタン	操作内容
[◀] [▶] ボタン	変更する文字を選びます。
[-] [+] ボタン	文字を変更します。

中止する場合は [Exit] (Cancel) ボタンを押します。

4. [Function] (Store) ボタンを押します。

演奏の設定が保存されます。

[1] ～ [6] のうち、選んだボタンが点滅から点灯に変わります。

ご注意!

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

5. [Exit] ボタンを押します。

メモ

レジストレーションは、工場出荷時の設定に戻すことができます。詳しくは、「お買い上げ時の設定に戻す (ファクトリーリセット)」(P.16) をご覧ください。

レジストレーション・セットを保存する (レジストレーション・セット・エクスポート)

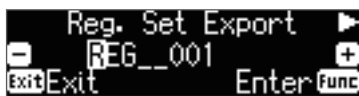
ピアノに保存されているレジストレーション・セットを、USB メモリーに保存できます。

※ USB メモリーに保存するときは、USB Memory 端子に USB メモリーをつないでおきます。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Reg. Set Export」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。
Reg. Set Export 画面が表示されます。



3. レジストレーション・セットの名前を変更します。

ボタン	操作内容
[◀] [▶] ボタン	変更する文字を選びます。
[−] [+] ボタン	文字を変更します。

中止する場合は [Exit] ボタンを押します。

4. [Function] (Enter) ボタンを押します。
レジストレーション・セットが保存されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

5. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

保存したレジストレーション・セットを読み込む (レジストレーション・セット・インポート)

USB メモリーに保存されたレジストレーション・セットを、ピアノのレジストレーションに読み込むことができます。

※ USB メモリーに保存されたレジストレーション・セットを読み込むときは、USB Memory 端子に USB メモリーをつないでおきます。

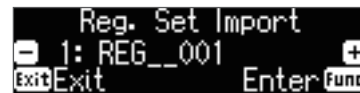
ご注意！

レジストレーション・セットを読み込むと、保存されているレジストレーションは上書きされ、すべて消えてしまいます。レジストレーションを消したくない場合は、USB メモリーに保存してください。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Reg. Set Import」を選びます。

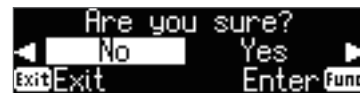


2. [Function] (Enter) ボタンを押します。
Reg. Set Import 画面が表示されます。



3. [−] [+] ボタンを押して、読み込むレジストレーション・セットを選びます。

4. [Function] (Enter) ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [Exit] ボタンを押します。

5. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。

レジストレーション・セットが [Registration] ボタンに読み込まれます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

6. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

♪ 便利な機能

メモリーを初期化する（メディアのフォーマット）

内部メモリーまたは USB メモリー（別売）に保存されているすべてのファイルを消去することができます。

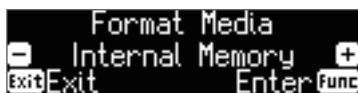
ご注意！

- ・初期化すると、内部メモリーまたは USB メモリーに保存されているデータはすべて消えてしまいます。
- ・内部メモリーまたは USB メモリーに保存されているデータ以外の設定をお買い上げ時の設定に戻すときは、ファクトリーリセット（P.16）をしてください。

1. USB メモリーを初期化する場合、USB メモリーを USB Memory 端子につなぎます（P.5）。
2. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Format Media」を選びます。



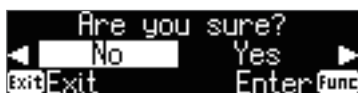
3. [Function] (Enter) ボタンを押します。
Format Media 画面が表示されます。



中止するときは [Exit] ボタンを押します。

4. [-] [+] ボタンで、初期化するメディアを選びます。
5. [Function] (Enter) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。



中止するときは [Exit] ボタンを押します。

6. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
初期化が実行されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に USB メモリーを抜いたり電源を切ったりしないでください。

7. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

お買い上げ時の設定に戻す（ファクトリーリセット）

ピアノに保存されている設定を、お買い上げ時の状態に戻すことができます。この機能を「ファクトリーリセット」といいます。

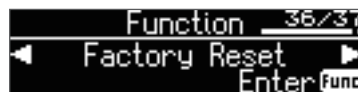
ご注意！

「ファクトリーリセット」後、それまで記憶していた設定はすべて消え、お買い上げ時の設定になります。

メモ

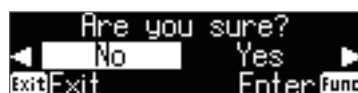
この操作をしても、内部メモリーまたは USB メモリー（別売）のデータは消えません。内部メモリーや、USB メモリーのデータをすべて消すときは「メモリーを初期化する（メディアのフォーマット）」（P.16）をご覧ください。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Factory Reset」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。



中止するときは [Exit] ボタンを押します。

3. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
ファクトリーリセットが実行されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

4. 電源を入れ直します（P.4）。

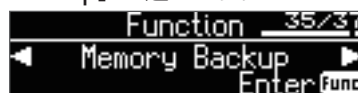
電源を切っても設定が変わらないようにする（メモリー・バックアップ）

調律法やイコライザーなどの設定は、電源を切ると初期設定に戻ります。メモリー・バックアップすることで、設定を本体メモリーに保存しておくことができます。

メモ

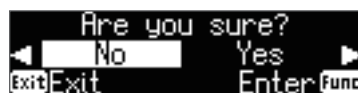
メモリー・バックアップで保存される設定については、「ピアノに保存される設定」（P.27）をご覧ください。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Memory Backup」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。



中止する場合は [Exit] ボタンを押します。

3. [▶] (右) ボタンで「Yes」を選び、[Function] (Enter) ボタンを押します。
メモリー・バックアップが実行されます。

ご注意！

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

4. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

Bluetooth® (ブルートゥース) 機能を使う



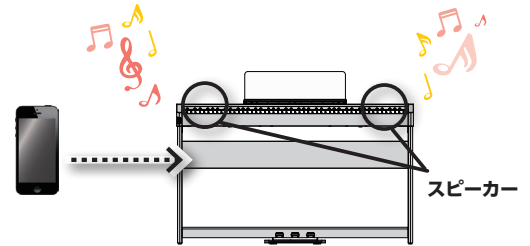
こんなことができます

Bluetooth 機能を使うと、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器（以下、「モバイル機器」と呼びます）とピアノが無線でつながり、次のことができます。

モバイル機器で再生した音楽を、ピアノのスピーカーで鳴らすことができます。

iPhone などのモバイル機器に保存している音楽データを再生すると、無線でピアノのスピーカーから鳴らすことができます。

→ピアノのスピーカーで音楽を聴く (P.18)



アプリと連携して、ピアノの楽しみかたを広げることができます。

アプリ（ローランド製「Piano Partner 2」や「Piano Designer」など）をモバイル機器にインストールして、ピアノと連携して使うことができます。

→アプリと連携して使う (P.19)

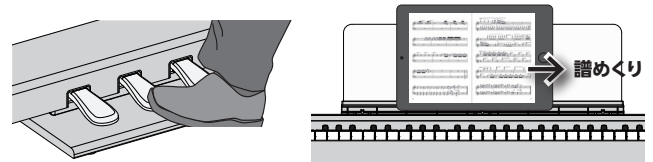


アプリ「Piano Partner 2」音あてゲーム

譜面表示アプリにつなげて、ペダルで譜めくりすることができます。

電子楽譜（譜面表示アプリ「piaScore」など）を iPad などのモバイル機器に表示させて、ペダルで譜めくりすることができます。

→譜面表示アプリの譜めくりをペダルで操作する (P.20)



ペアリング

Bluetooth 機能を使うには、初めにピアノとモバイル機器を 1 対 1 でつなぐ「ペアリング」が必要です。

「ペアリング」は、使いたいモバイル機器にピアノを登録する（お互いに認証する）ための手続きです。

各機能の手順にしたがってペアリングをしてください。



ピアノとモバイル機器との接続の状態

接続されたモバイル機器の機能に応じて、画面の左下には以下のアイコンが表示されます。

機能	表示されるアイコン
モバイル機器の音楽を聴く	(AUDIO)
アプリと連携する	(MIDI)
ペダルで譜めくりする	(PAGE)
譜めくりとアプリの連携	(P+MIDI)

※ うまく接続できない場合は、**Bluetooth** 機能に関するトラブル」(P.21) をご覧ください。

ピアノのスピーカーで音楽を聴く

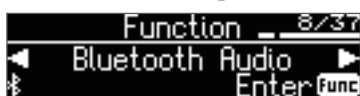
モバイル機器に保存している音楽データを、ワイヤレスでピアノのスピーカーから再生するための設定をします。

※ ピアノとのペアリングが済んだモバイル機器は、再度ペアリングする必要はありません。「初期設定済みのモバイル機器を接続する」(P.18) の手順をご覧ください。

初期設定をする (ペアリング)

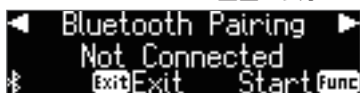
例として、iPad を使った設定方法を紹介します。Android 機器をお使いの場合、設定方法についてはお使いのモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

1. 接続したいモバイル機器をピアノ周辺に置きます。
2. ピアノの [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Bluetooth Audio」を選びます。



3. [Function] (Enter) ボタンを押します。

Bluetooth オーディオ画面が表示されます。



4. [Function] (Enter) ボタンを押します。

「Now pairing...」と表示され、ピアノはモバイル機器からの応答を待ちます。



ペアリングをやめる場合は、[Exit] ボタンを押します。

5. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



6. モバイル機器の Bluetooth デバイス画面に表示されている「FP-60 Audio」をタップします。



※ モバイル機器の画面に「パス・キー」の入力を要求された場合は「0000」（ゼロを4つ）を入力してください。

ペアリングが成功すると、モバイル機器の「自分のデバイス」リストに「FP-60 Audio」が追加されます。

ピアノのディスプレイに「Completed」と表示され、Bluetooth マークの横に「AUDIO」と表示されます。



7. ピアノの [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

初期設定は完了です。

初期設定済みのモバイル機器を接続する

1. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。

ピアノとモバイル機器が無線でつながります。

メモ

上記の操作で接続ができなかった場合は、モバイル機器の Bluetooth デバイス画面に表示されている「FP-60 Audio」をタップしてください。

オーディオを再生する

モバイル機器で音楽データを再生すると、ピアノのスピーカーから音が鳴ります。

Bluetooth オーディオのボリュームを調節する

通常は、お使いのモバイル機器側でボリュームを調整します。

それでも思ったようなボリュームにならないときは、以下の操作でボリュームを調節します。

1. 「初期設定をする (ペアリング)」(P.18) の手順 2～3 の操作をします。
2. [◀] [▶] ボタンで「Input/Bluetooth Vol.」を選び、[-] [+] ボタンでボリュームを調節します。



ピアノを複数台お持ちの場合は

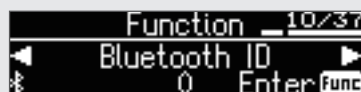
たとえば、音楽教室にある複数台のピアノとモバイル機器のペアリングをするときは、各ピアノに ID (識別番号) を設定することで、目的のピアノとペアリングすることができます。

複数台のピアノとペアリングをするとき

各ピアノに Bluetooth ID (識別番号) を設定します。

この設定をすると、モバイル機器にデバイス名が表示されるときに、末尾に識別番号付で表示されます (「FP-60 Audio1」など)。

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Bluetooth ID」を選びます。



2. [Function] (Enter) ボタンを押します。

3. [-] [+] ボタンで、設定値を変えます。

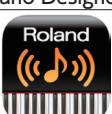
設定値	説明
0 ~ 99	[0] に設定: 「FP-60 Audio」 「FP-60」 (初期値) [1] に設定: 「FP-60 Audio1」 「FP-60_1」

※ ピアノが複数台ある環境でペアリングするときは、ペアリングするピアノとモバイル機器のみ電源を入れることをお勧めします (他の機器の電源は切ってください)。

アプリと連携して使う

ピアノと連携して、モバイル機器にインストールしたアプリを使えるようにする設定をします。

ピアノと連携して使えるアプリ例

アプリ名	対応 OS	説明
 Piano Partner 2	iOS Android	内蔵曲の楽譜を表示したり、鍵盤演奏するとコード認識して自動で伴奏を付けたり、聴音トレーニングの音あてゲームなどができます。
 Piano Designer	iOS Android	ピアノの弦やペダルの共鳴など、ピアノのさまざまな音の要素を調節できる「ピアノデザイナー」機能 (P.13) を、視覚的にわかりやすく操作できます。
 Music Data Browser	iOS	ローランドの電子楽器向けミュージックデータの試聴や購入、転送ができます。

※ アプリは App Store、Google Play よりダウンロードできます (無料)。

※ 本書は、発行時点での当社製アプリの情報を掲載しています。最新情報については、ローランド・ホームページをご覧ください。

設定をする (ペアリング)

例として、iPad を使った設定方法を紹介します。Android 機器をお使いの場合、設定方法についてはお使いのモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

※ ピアノと連携してアプリを使う場合は、毎回ペアリングの設定をする必要があります。

1. モバイル機器の Bluetooth 設定で、すでに FP-60 がペアリングされている場合は、いったん解除します。

「FP-60」のデバイス名が表示されないときは、ペアリングされていません。次の手順に進みます。

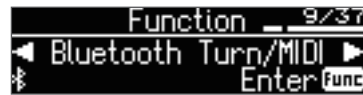


2. モバイル機器の Bluetooth 機能を、いったんオフにします。



3. 使いたいアプリをインストールしたモバイル機器を、ピアノ周辺に置きます。

4. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Bluetooth Turn/MIDI」を選びます。



5. [Function] (Enter) ボタンを押します。

6. [-] [+] ボタンで、「MIDI」を選びます。



7. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



ご注意

デバイス名「FP-60」が表示されてもタップしないでください。タップしてペアリングした場合は、手順 1 からやり直してください。

8. モバイル機器にインストールしたアプリ (Piano Partner 2 など) の設定で、ピアノとペアリングをします。

ペアリングが完了すると、ピアノ画面の Bluetooth マークの横に「MIDI」と表示されます。以上で設定は完了です。



譜面表示アプリの譜めくりをペダルで操作する

ピアノのペダルで、モバイル機器に表示させた電子譜面（譜面表示アプリ「piaScore」など）のページをめくる設定をします。

初期設定をする（ペアリング）

例として、iPad を使った設定方法を紹介します。Android 機器をお使いの場合、設定方法についてはお使いのモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

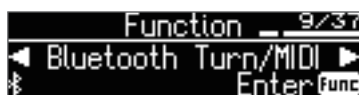
1. モバイル機器の Bluetooth 設定で、すでに FP-60 がペアリングされている場合は、いったん解除します。
「FP-60」のデバイス名が表示されないときは、ペアリングされていません。次の手順に進みます。



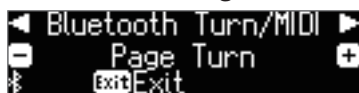
2. モバイル機器の Bluetooth 機能を、いったんオフにします。



3. 譜面表示アプリをインストールしたモバイル機器を、ピアノ周辺に置きます。
4. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで「Bluetooth Turn/MIDI」を選びます。



5. [Function] (Enter) ボタンを押します。
6. [◀] [▶] ボタンで「Bluetooth Turn/MIDI」を選び、[-] [+] ボタンで、「Page Turn」を選びます。



7. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



8. モバイル機器の「FP-60」をタップします。



モバイル機器の「ペアリング」をタップします。



※ モバイル機器の画面に「パス・キー」の入力を要求された場合は 0000（ゼロを 4 つ）を入力してください。

ペアリングが成功すると、モバイル機器の「自分のデバイス」リストにモデル名「FP-60」が追加されます。
ピアノ画面の Bluetooth マーク横に「PAGE」と表示されます。



9. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

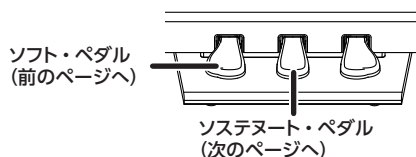
初期設定は完了です。

初期設定済みのモバイル機器を接続する

1. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。
ピアノとモバイル機器が無線でつながります。

譜めくりをする

1. モバイル機器にインストールした譜面表示アプリを起動して、楽譜を読み込みます。
2. ソステヌート・ペダルで次のページ、ソフト・ペダルで前のページに譜めくりします。



※ ペダルの機能（別売のペダル使用時）は、「中央／左ペダル機能（P.23）」よりも「譜めくり」が優先されます。

譜めくりとソフト／ソステヌート・ペダルの両方を使いたいときは

譜めくり機能を使いながら、ソフト・ペダル／ソステヌート・ペダルとしても使えるように、設定を変えることができます。

1. 「初期設定をする（ペアリング）」（P.20）の手順 4～5 の操作をします。
2. [◀] [▶] ボタンで「Page Turn Mode」を選び、[-] [+] ボタンで機能を選びます。

設定値	説明
Once	1 回ペダルを踏むと、譜めくりします。
Twice	2 回連続で素早くペダルを踏むと、譜めくりします。 1 回踏むと、通常のペダルの動作をします。

3. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。

Bluetooth 機能に関するトラブル

症状	確認事項／対策		ページ
モバイル機器の Bluetooth デバイス一覧に、ピアノ名 (FP-60) が現れない	Bluetooth 機能が「Off」になっていませんか？	Bluetooth 機能を「On」にしてください。 Bluetooth オーディオ機能： ファンクション・モード → 「Bluetooth Audio」 → 「Bluetooth Audio」を「On」 Bluetooth 譜めくり／MIDI 機能： ファンクション・モード → 「Bluetooth Turn/MIDI」 → 「Bluetooth Turn & MIDI (*1)」を「On」 (*1) ファンクション・モードの「Bluetooth Turn/MIDI」の設定によっては、「Bluetooth Page Turn」または「Bluetooth MIDI」と表示される場合もあります。	P.17
	Bluetooth オーディオ機能が「On」の場合	[FP-60 Audio] というデバイスが現れます。	
	Bluetooth 譜めくり機能が「On」、Bluetooth 譜めくり／MIDI 機能が「Page Turn」または「Page Turn&MIDI」の場合	[FP-60] というデバイスが現れます。	-
	Bluetooth 譜めくり機能が「On」、Bluetooth 譜めくり／MIDI 機能が「MIDI」または「Page Turn&MIDI」の場合	Piano Partner 2 などのアプリ内の設定から確認できます。	
	Bluetooth オーディオに接続できない (ピアノのスピーカーで音楽を聴く設定ができない)	モバイル機器側の Bluetooth 設定にピアノ (FP-60 Audio) がデバイスとして見えている場合 ピアノ (FP-60 Audio) がデバイスとして見えていない場合	モバイル機器のデバイスの登録を一度解除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」し、ペアリングし直してしてください。 モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」してから、ピアノからペアリングを開始し、ペアリングし直してしてください。
Bluetooth 譜めくりに接続できない (ペダルで譜めくりする設定ができない)	Bluetooth Turn/MIDI 機能の「Turn」と「MIDI」を切り替えると、モバイル機器との接続ができなくなることがあります。いったん接続を解除してから、接続し直してください。		-
	モバイル機器側の Bluetooth 設定にピアノ (FP-60) がデバイスとして見えている場合 ピアノ (FP-60) がデバイスとして見えていない場合	モバイル機器のデバイスの登録を一度解除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」し、ペアリングし直してしてください。 モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」してから、接続し直してしてください。	P.20
Bluetooth MIDI に接続できない (アプリと連携して使う設定ができない)	Bluetooth 譜めくり／MIDI 機能を切り替えると、モバイル機器との接続ができなくなることがあります。モバイル機器に登録されている「FP-60」を解除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」し、接続し直してしてください。		
モバイル機器のアプリと接続できない	モバイル機器の Bluetooth 設定ではなく、「Piano Partner 2」などのアプリ内の設定から接続してください。アプリ「Music Data Browser」は、iOS のみ対応しています。		
譜めくり機能と MIDI 機能でペアリングできない	譜めくり機能と、アプリと連携する (MIDI) 機能は、最初の接続時にモバイル機器側でデバイスを選んでペアリングします。ピアノからペアリング開始の操作は必要ありません。		
譜めくり機能と MIDI 機能を同時に使用できない	Bluetooth 譜めくり／MIDI 機能を、「Page Turn&MIDI」に設定してください。		
ペアリングしたモバイル機器がつかない	接続してもすぐに切れてしまうときや、譜めくり機能と、アプリと連携する (MIDI) 機能を切り替えたときは、モバイル機器のデバイスの登録を一度解除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能を「Off」 → 「On」し、ペアリングし直してしてください。		
モバイル機器にキーボードが表示されなくなった (使えなくなった)	譜めくり機能を使うと、使用するモバイル機器のアプリによってはキーボードが表示されない (キーボードが使えない) ことがあります。譜めくり機能を使いながら、モバイル機器のキーボードを表示するには、ピアノの [Exit] ボタンを押しながら [Function] ボタンを押します。 モバイル機器のキーボードを消すには、再度、[Exit] ボタンを押しながら [Function] ボタンを押します。		
ペダルを踏んでも譜めくりしない	お使いの譜面表示アプリによっては、文字入力用キーボードの「↑」「↓」キーで譜めくりするものと、「Page Up」「Page Down」キーで譜めくりするものがあります。 ソフト・ペダル／ソステヌート・ペダルを踏んでも譜めくりしない場合は、この譜めくり操作キーを変更してお試しください。		
	1. 「譜面表示アプリの譜めくりをペダルで操作する」 (P.20) の手順 4 ～ 5 の操作をします。		
	2. [◀] [▶] ボタンで「Page Turn Assign」を選び、[-] [+] ボタンで機能を選びます。		
	設定	説明	-
	Cursor Up/Down	キーボードの [↑] [↓] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。	
Page Up/Down	キーボードの [Page Up] [Page Down] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。		
Cursor Left/Right	キーボードの [←] [→] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。		
3. [Exit] ボタンを押して、ファンクション・モードを終了します。			

メモ

内容を確認しても解決しないときは、ローランドのサポート・ページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

各種設定

いろいろな設定をする（ファンクション・モード）

ファンクション・モードの基本操作

1. [Function] ボタンを押して、[◀] [▶] ボタンで設定したい項目を選びます。
※ 選んだ項目によっては、さらに項目を選ぶ画面が表示される場合があります。
2. [-] [+] ボタンで、項目内の設定値を変えます。
3. [Exit] ボタンを何度か押して、ファンクション・モードを終了します。
※ FP-60 の設定は、電源を切ると消えて初期設定に戻りますが、電源を入れ直しても設定が変わらないように保存しておくことができます。
「電源を切っても設定が変わらないようにする（メモリー・バックアップ）」(P.16) をご覧ください。

表示 ([◀] [▶] ボタン)	設定値 ([-] [+] ボタン)	説明
Key Touch	鍵盤を弾いたときのタッチ感を変える（キー・タッチ）	
	演奏者の好みに合わせて、鍵盤を弾いたときの手応え（タッチ感）を調節できます。	
	Fix、1 ～ 100	数値が大きいくほど、鍵盤が重く感じられます。 設定値を Fix にすると、鍵盤を強く強さに関係なく一定の音量で音が鳴ります。
Master Tuning	他の楽器と音の高さを合わせる（マスターチューニング）	
	他の楽器とアンサンブルするときなど、ピアノの基準ピッチを他の楽器に合わせることができます。 基準ピッチとは、一般的に、中央 A（A4）の鍵盤を弾いたときの音の高さのことをいいます。他の楽器とアンサンブル演奏をするときには、きれいなアンサンブルにするためにお互いの基準ピッチを合わせます。他の楽器と基準ピッチを合わせることを「チューニング」といいます。 415.3Hz ～ 440.0Hz ～ 466.2Hz	
Temperament	調律法を変える（調律法）	
	バロックなどの古典音楽を当時の調律法で演奏することができます。 現在では、一般に平均律（現在最も一般的な調律法）を前提に作曲され、演奏されるのがあたりまえとなっていますが、古典音楽の時代にはいろいろな調律法が存在していました。当時の調律法で演奏してみると、その曲が本来もっている和音の響きを味わうことができます。	
	Equal（平均律）	オクターブを均等に 12 分割してできた調律です。現在のピアノで最も一般的な調律法です。どの音程も同じくらいわずかな濁りが生じます。
	Just Major Just Minor	主要三和音が濁りのない調律です。メロディーの演奏には不向きで転調はできませんが、美しい和音の響きをもちます。純正調は長調と短調で調律が異なります。
	Pythagorean	哲学者ピタゴラスによって考えられた 4 度と 5 度の濁りをなくした調律です。3 度の和音に濁りが生じますが、シンプルな旋律の曲に向きます。
	Kirnberger I	純正調と同様に主要三和音が純正な調律です。この調律法に適した調で書かれた曲を演奏すると美しい響きとなります（キルンベルガー第一法）。
	Kirnberger II	キルンベルガー第一法を修正して、使用できる調の制限を少なくした調律法です（キルンベルガー第二法）。
	Kirnberger III	中全音律と純正調を改良し、転調の自由度を高めた調律法です。すべての調での演奏ができます。調により響きかたが異なるため、平均律に比べて和音の響きが多彩になります（キルンベルガー第三法）。
	Meantone	長 3 度を純正に取り、5 度を純正よりわずかに狭めた調律法です。純正調では大全音と小全音の 2 種類の全音があるのに対し、この調律では 1 種類の全音（中全音）のみになります。限定された調の中で転調できます。
	Werckmeister	8 つの純正 5 度と 4 つの狭い 5 度からなる調律法です。すべての調での演奏ができます。調により響きかたが異なるため、平均律に比べて和音の響きが多彩になります（ペルクマイスター第一技法第三番）。
	Arabic	アラビア音楽に適した調律です。
	Temperament Key	調律の主音を設定する（調律法主音）
平均律以外の調律法で演奏するときに、演奏する曲の調に合わせて主音（長調ならド、短調ならラにあたる音）を選びます。 平均律を選んでいる場合は、主音を選ぶ必要はありません。 C ～ B		
Piano Designer	ピアノの弦、ペダルの共鳴音など、ピアノのさまざまな音の要素を調節することにより、好みのピアノの音を作ることができます。 「自分だけのピアノ音色を作る（ピアノデザイナー）」(P.13) をご覧ください。	
Hammer Response	Off、1 ～ 10	鍵盤を弾いてからピアノ音が鳴るまでの時間を調節します。値が大きくなるほど遅くなります。
Equalizer	イコライザーの設定を変える	
	低音や高音だけを増したり減らしたりして、音質を調節できます。 イコライザーの設定をエディットするには [◀] [▶] ボタンで「Equalizer」を選び、[Function]（Enter）ボタンを押します。	
	EQ Low Freq	20 ～ 400 (Hz) 低音域の周波数ポイント だいたいこの周波数以下の帯域のレベルが変わります。
	EQ Mid Freq	200 ～ 8000 (Hz) 中音域の周波数ポイント この周波数を中心とする帯域のレベルが変わります。
	EQ Mid Q	0.5、1.0、2.0、4.0、8.0 中音域の帯域幅 数値が大きくなると、コントロールできる帯域が狭くなります。
	EQ High Freq	2000 ～ 16000 (Hz) 高音域の周波数ポイント だいたいこの周波数以上の帯域のレベルが変わります。
Bluetooth Audio	「ピアノのスピーカーで音楽を聴く」(P.18) をご覧ください。	
Bluetooth Turn/MIDI	「譜面表示アプリの譜めくりをペダルで操作する」(P.20) をご覧ください。	

表示 ([◀] [▶] ボタン)	設定値 ([−] [+] ボタン)	説明
Bluetooth ID	「ピアノを複数台お持ちの場合は」(P.18) をご覧ください。	
Input/Bluetooth Vol.	オーディオ再生機器や Bluetooth オーディオの音量を調節する（インプット／Bluetooth ボリューム） Input Stereo 端子にオーディオ再生機器をつないだときや Bluetooth でオーディオを再生するとき、オーディオ再生機器からの音量を調節します。 0 ～ 10	
SMF Play Mode	曲（SMF 形式）再生時の鍵盤の音色を設定する（SMF 再生モード） 内蔵曲や外部データを再生しながら、鍵盤演奏をするときの音色の設定です。通常は自動選択（[Auto-Select]）でお使いください。 曲（SMF）再生時に、内蔵曲と外部データのどちらに最適な設定にするかを選びます。 メモ [▶/■] ボタンを押しながら [−] [+] ボタンを押して、SMF 再生モードを切り替えることもできます。 ※ SMF 再生モードを「外部データ」に設定しているときは、ピアノデザイナーの「ダンパー・レゾナンス」効果（P.13）はかかりません。 Auto-Select（自動選択）再生する曲に合わせて、内蔵曲 [Internal] か外部データ [External] に自動で切り替わります。 Internal（内蔵曲）内蔵曲を再生すると、鍵盤演奏する音色は内蔵曲の音色に自動で変わります。 内蔵曲やこのピアノで録音した曲を再生するときにお勧めです。 External（外部データ）外部データを再生しても、鍵盤演奏する音色は外部データの音色とは別に設定できます。 市販のミュージックデータなどの外部データを再生するときにお勧めです。	
Recording Mode	録音するときの形式を選ぶ（録音モード） 録音するときに SMF で録音するか、オーディオで録音するかを選びます。 10 ページ メモ [●] ボタンを押しながら [−] [+] ボタンを押して、録音モードを切り替えることもできます。 SMF 演奏を録音し、ピアノで再生します。（SMF フォーマット 0） Audio 音声データとして録音します。（WAV フォーマット、44.1kHz、16 ビット・リニア） ピアノで録音した演奏を、パソコンやオーディオ・プレーヤーで聴いたり、CD を作成したりすることができます。	
Rename Song	「曲の名前を変更する（曲の名前変更）」(P.12) をご覧ください。	
Copy Song	「保存した曲をコピーする（曲のコピー）」(P.12) をご覧ください。	
Delete Song	「保存した曲を削除する（曲の削除）」(P.11) をご覧ください。	
Format Media	「メモリーを初期化する（メディアのフォーマット）」(P.16) をご覧ください。	
Damper Pedal Part	ペダルの効果のかけかたを変える（右ペダル・パート） デュアル（Dual）演奏（P.7）やスプリット（Split）演奏（P.7）のときに、Damper 端子につないだペダルを踏むと、2 つの音色の両方にペダルの効果がかかりますが、効果をつける音色を選ぶことができます。 Right & Left（右手&左手）両方の音色に有効 Right（右手）音色 1（デュアル演奏時）／右手音色（スプリット演奏時）にのみ有効 Left（左手）音色 2（デュアル演奏時）／左手音色（スプリット演奏時）にのみ有効	
Center Pedal	ペダルのはたらきを変える（中央ペダル機能） 中央ペダル（Pedal Sostenuto 端子につないだペダル）のはたらきを変えられます。 Sostenuto *1 ソステヌート・ペダルのはたらきをします。 Soft *2 ソフト・ペダルのはたらきをします。 Play/Stop [▶/■] ボタンと同じはたらきをします。 Layer デュアル演奏時、音色 2 の音量をコントロールすることができます。 Expression *3 音量をコントロールできます。エクスプレッション・ペダル（別売：EV-5）をつなぐと便利です。 録音した演奏の音量は変わりません。 Master Expression FP-60 全体の音量をコントロールします。 Bend Up *3 ペダルを踏むとピッチが上がります。 Bend Down *3 ペダルを踏むとピッチが下がります。 Modulation *3 ペダルを踏むとビブラート効果がかかります。 Rotary Sw ロータリー効果を使用している場合にロータリー効果の速い／遅いを切り替えます。 *1 Center Pedal で設定できます。 *2 Left Pedal で設定できます。 *3 Center Pedal Part や Left Pedal Part で設定している音色に効果がかかります。 ※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。	
Center Pedal Part	ペダルの効果のかけかたを変える（中央ペダル・パート） デュアル（Dual）演奏やスプリット（Split）演奏のときに、Pedal Sostenuto 端子につないだペダルを踏むと、2 つの音色の両方にペダルの効果がかかりますが、効果をつける音色を選ぶことができます。 「ペダルの効果のかけかたを変える（右ペダル・パート）」(P.23) をご覧ください。	
Left Pedal	ペダルのはたらきを変える（左ペダル機能） Pedal Soft 端子につないだペダルのはたらきを変えられます。 「ペダルのはたらきを変える（中央ペダル機能）」(P.23) をご覧ください。	

各種設定

表示 ([◀] [▶] ボタン)	設定値 ([−] [+] ボタン)	説明
Left Pedal Part	ペダルの効果のかけかたを変える (左ペダル・パート)	
	デュアル (Dual) 演奏やスプリット (Split) 演奏のときに Pedal Soft 端子につないだペダルを踏むと、2 つの音色の両方にペダルの効果がかけられますが、効果かける音色を選ぶことができます。 「ペダルの効果のかけかたを変える (右ペダル・パート)」(P.23) をご覧ください。	
Reg. Pedal Shift	ペダルでレジストレーションを切り替える (レジストレーション・ペダル・シフト)	
	ペダルを踏んで、レジストレーションを切り替えることができます。ペダルを踏むたびに、次のレジストレーションに切り替わります。	
	Off	Pedal Soft 端子、Pedal Sostenuto 端子に割り当てられた機能がはたります。
	Left Pedal	Pedal Soft 端子に接続したペダルは、レジストレーション切り替え専用になります。
Reg. Set Export	Center Pedal	
	Pedal Sostenuto 端子に接続したペダルは、レジストレーション切り替え専用になります。	
Reg. Set Import	「レジストレーション・セットを保存する (レジストレーション・セット・エクスポート)」(P.15) をご覧ください。	
Reg. Set Import	「保存したレジストレーション・セットを読み込む (レジストレーション・セット・インポート)」(P.15) をご覧ください。	
Reg. Transmit Ch.	音色の切り替え情報を送る (MIDI 送信の情報)	
	レジストレーションの切り替えと同時に、プログラム・チェンジ、バンク・セレクト、MSB、バンク・セレクト LSB を MIDI 機器に送信します。また、送信チャンネルを設定できます。	
	Off、1 ~ 16	プログラム・チェンジの送信チャンネルを設定します。
	Reg. Bank MSB	0 (00) ~ 127 (7F)
	Reg. Bank LSB	0 (00) ~ 127 (7F)
	Reg. PC	1 (00) ~ 128 (7F)
Local Control	シーケンサーとつないだときの 2 度鳴りを防ぐ (ローカル・コントロール)	
	USB で MIDI シーケンサーを接続したときには、この項目で、ローカル・オフに設定します。 通常のシーケンサーはスルー機能がオンに設定されているため、鍵盤を弾いた音が 2 重に重なって聴こえたり、途切れたりします。これを防ぐために鍵盤と内部の音源を切り離すことを、「ローカル・オフ」といいます。	
	Off	ローカルコントロールがオフになります。 鍵盤が内部の音源と切り離された状態です。鍵盤を弾いても音は鳴りません。
	On	ローカルコントロールがオンになります。 鍵盤が内部の音源とつながっている状態です。
MIDI Transmit Ch.	MIDI 送信チャンネルを変える (MIDI 送信チャンネル)	
	ピアノが送信する MIDI チャンネルを設定します。 なお、このピアノは 1 ~ 16 のすべてのチャンネルを受信します。 Off、1 ~ 16	
Display Contrast	ディスプレイの明るさを調節する (ディスプレイ・コントラスト)	
	ピアノのディスプレイの明るさを調節することができます。 1 ~ 10	
Panel Brightness	ボタンの明るさを変更する (パネル・ブライツネス)	
	ピアノのボタンの明るさを変更することができます。 Dim、Bright	
Auto Off	一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (オートオフ)	
	このピアノは演奏や操作をやめてから 240 分経過すると、自動的に電源が切れます (工場出荷時の設定)。 自動で電源を切る必要がない場合は、「Auto Off」を「Off」に設定します。 Off、10、30、240 (min.)	
Memory Backup	FP-60 の設定は、電源を切ると消えて初期設定に戻りますが、電源を入れ直しても設定が変わらないように保存しておくことができます。 「電源を切っても設定が変わらないようにする (メモリー・バックアップ)」(P.16) をご覧ください。	
Factory Reset	「お買い上げ時の設定に戻す (ファクトリーリセット)」(P.16) をご覧ください。	
Version	このピアノのシステム・プログラムのバージョンを表示します。	

故障かな?と思ったら

症状	確認事項	対策	ページ
ヘッドホンを使って消音しても、鍵盤を弾くと打鍵音がカタカタ鳴る	このピアノの鍵盤は、アコースティック・ピアノの構造をシミュレートして設計されています。アコースティック・ピアノの場合でも、鍵盤を押したときに打鍵音が実際に出ています。打鍵音がカタカタ鳴っていても故障ではありません。		-
電源が勝手に切れる	オートオフの設定が「Off」以外になっていませんか?	自動で電源を切る必要がない場合は、オートオフの設定を「Off」にしてください。	P.27
電源が入らない	AC アダプターが正しくつながっていますか?		-
ペダルが効かない、または効きっぱなしになる	ペダルが正しくつながっていますか?		-
	ペダル・コード、ピアノ背面にある Pedal 端子を確認してください。		-
	ピアノの電源を入れたまま、ペダル・コードを抜き差ししていませんか?	ピアノの電源を切ってから、ペダル・コードを抜き差ししてください。	-
	ペダルのはたらきを変えていますか?	ペダル機能 (中央ペダル機能、左ペダル機能) の設定を戻してください。	P.23
	Bluetooth 機能の譜めくりを使っていますか?		P.20
	レジストレーション・ペダル・シフトを使っていますか?		P.24
外部機器から「ブーン」という音が鳴る	外部機器の電源を複数のコンセントにつないでいませんか?	外部機器の電源は、必ず同じコンセントにつないでください。	-
Input Stereo 端子につないだ機器の音量が小さい	[Input/Bluetooth Vol.] が小さくなっていませんか?		P.23
	つないでいる機器の音量が小さくなっていませんか?		-
音が正しく鳴らない			
音が鳴らない	アンプやスピーカー、ヘッドホンなどが正しくつながれていますか?		P.5
	音量が小さくなっていませんか?		P.6
	ヘッドホン端子にヘッドホンや変換プラグを挿していますか?		P.4
	ヘッドホン端子にヘッドホンなどをつないでいるときは、スピーカーから音が出ません。		
	ローカルコントロールが「Off」になっていませんか?	ローカルコントロールを「On」にしてください。	P.24
	Speaker [Off/On] スイッチが「Off」になっていませんか?		P.5
	Speaker [Off/On] スイッチが「Off」になっていると、本体スピーカーから音は出ません。		
	Part [Upper] [Lower] スライダーが下がっていませんか?		P.6
	Part スライダーが下がっていると音は鳴りません。		
	エクスプレッション・ペダルを使っていますか?	エクスプレッション・ペダルで音量を調整してください。	-
鍵盤や曲の音程、ピッチがずれている	移調 (トランスポーズ) の設定をしていますか?		P.6
	マスターチューニングの設定は適切ですか?		P.22
	調律法の設定は適切ですか?		P.22
	88 鍵チューニングの設定は適切ですか?		P.13
弾いた音が途切れる	ダンパー・ペダルを踏んで、多くの音を鳴らしていませんか?		-
	また、デュアル演奏をしたり曲と一緒に演奏したりしていませんか?		
鍵盤を弾くと、2つの音が鳴る	2つの音色を重ねる「デュアル演奏」の状態になっていませんか?	[Split/Dual] ボタンを押してデュアル演奏を解除してください。	P.7
	外部シーケンサー等につなげていませんか?	別の音源から鳴らないようにするには、DAW のソフト・スルーの設定を「オフ」にしてください。	-
		Local Control が「On」になっている場合は、Local Control を「Off」にしてください。	P.24
デュアル演奏/スプリット演奏のとき、音色の聞こえかたが変わる	2つの音色を重ねる「デュアル演奏」や左手と右手で違う音色にする「スプリット演奏」では、音色の組み合わせによっては聞こえかたが変わることがあります		P.7
音の響き効果をオフにしても残響音がする	アコースティック・ピアノの特徴を再現しているため、故障ではありません。「Ambience」をオフにしても、アコースティック・ピアノ本来の響きが残ります。		-

症状	確認事項	対策	ページ
高音、低音しか鳴らない	イコライザーを調整していませんか?		P.6
高音部で、ある鍵盤から音が急に変わる	アコースティック・ピアノの特徴を再現しているため、故障ではありません。 鍵あたりの弦の本数や、巻線/単線の境目では音色が変わります。		-
「キーン」という音がする	ヘッドホンからは聞こえないとき: ピアノに何らかの問題があると考えられます。お買い上げ店またはローランドお客様相談センターにお問い合わせください。		-
	ヘッドホンからも聞こえるとき: 「キーン」という金属的な響きを少なくするには、以下の設定を調整してください。 • Ambience (P.6) • String Resonance (P.13)		-
鍵盤を押したとき、押していない鍵盤の音もかすかに聞こえる	鳴らしている音の倍音 (整数倍の振動数をもつ音) が共鳴して、響きが変わったように聞こえる場合がありますが、故障ではありません。 ピアノデザイナーの「String Resonance」の設定値を下げるか、オフにしてください。		P.13
音がおかしい/ビリビリと共鳴する	音量を最大にしていませんか?	音量を小さくしてください。	P.6
	ヘッドホンからも聞こえるとき: ピアノに何らかの問題があると考えられます。お買い上げ店またはローランドお客様相談センターにお問い合わせください。		-
	ヘッドホンからは聞こえないとき: スピーカーから出力される音が大きいために、ピアノ周辺のものが共鳴しています。共鳴を抑えるには、次のことにご注意ください。 • ピアノを壁などから 10 ~ 15cm 離して設置する。 • 音量を控える。 • 共鳴している器具などから遠ざける。		-
	曲が正しく鳴らない		
曲を再生すると選んでいる音色が変わってしまう	SMF 再生モードの設定が「Auto-Select」または「Internal」になっていませんか?	SMF 再生モードを「External」に設定してください。	P.23
録音するとピアノの音質が変わってしまう	ピアノデザイナーで作った音色で録音していませんか? オーディオ録音した音を再生していませんか?	ピアノデザイナーの設定は、曲を再生したときに再現されないことがあります。 SMF 録音してください。	- P.10
曲の中の、ある楽器の音だけが鳴らない	Part [Upper] [Lower] スライダーが下がっていませんか? Part スライダーが下がっていると音は鳴りません。		P.6
曲を再生しても音が鳴らない	[Song Vol] スライダー、Part [Lower] [Upper] スライダーが「0」になっていませんか?		P.6 P.9
曲の音量が小さい/録音と再生で音量が違う	[Song Vol] スライダー、Part [Lower] [Upper] スライダーの値が小さくなっていませんか?		P.6 P.9
USB メモリーに保存されている曲を再生できない	再生できるファイルは、オーディオ・ファイル、MP3、MIDI ファイルです。		-
	オーディオ・ファイル	拡張子 [.wav]、16 ビット・リニア、44.1kHz	-
	MP3	拡張子 [.mp3]、64kbps ~ 320kbps、44.1kHz	-
	MIDI ファイル	拡張子 [.MID]	-
USB メモリーの曲名が表示されない	ファイル内の曲名情報が空もしくはスペースのみになっていませんか?		-
	拡張子は「.MID」ですか? 拡張子が「.MID」のファイルのみ画面に曲名を表示できます。		-
	ファイル名に 2 バイト文字 (日本語など) を使っていないか?	ファイル名は、数字やアルファベットのみにするようにリネームしてください。	-
録音できない			
オーディオ録音できない	USB Memory 端子に USB メモリーをつないでいませんか?		-

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

🎵 こんな表示が出たら（エラー・メッセージ）

表示	意味
Error 2	書き込み中にエラーが発生しました。USB メモリーが破損している可能性があります。 別の USB メモリーを挿入して、もう一度操作してください。または、USB メモリーを初期化してください (P.16)。 内部メモリーが破損している可能性があります。内部メモリーをフォーマットしてください (P.16)。
Error 10	USB メモリーが挿入されていません。 USB メモリーを挿入してから、もう一度操作してください。 内部メモリーが破損している可能性があります。内部メモリーをフォーマットしてください (P.16)。
Error 11	保存先の空き容量が足りません。 別の USB メモリーを挿入するか、不要なファイルを削除して、もう一度操作してください。
Error 14	読み込み中にエラーが発生しました。USB メモリーが破損している可能性があります。 別の USB メモリーを挿入して、もう一度操作してください。または、USB メモリーを初期化してください (P.16)。 内部メモリーが破損している可能性があります。内部メモリーをフォーマットしてください (P.16)。
Error 15	ファイルを読むことができません。このピアノが対応していないデータ形式です。
Error 18	対応していないオーディオ・フォーマットです。 WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニアまたは、MP3 形式、44.1kHz、64kbps ～ 320kbps のオーディオ・ファイルを使用してください。
Error 30	ピアノの記憶容量が足りません。
Error 40	MIDI から一度にたくさんの MIDI データが送られてきたため、このピアノで処理できません。 MIDI から送信されるデータ量を減らしてください。
Error 43	MIDI 通信でエラーが発生しました。つないでいる MIDI 機器を確認してください。
Error 51	システムに異常がある可能性があります。操作をやり直してください。何度か操作をやり直してもこの表示が出る場合は、ローランドお客様相談センターにご連絡ください。
Error 65	USB Memory 端子に過大な電流が流れました。USB メモリーに異常がないか確認したあと、電源を入れ直してください。

🎵 音色一覧

Piano

#	音色名
1	Concert Piano
2	Ballad Piano
3	Mellow Piano
4	Bright Piano
5	Upright Piano
6	Mellow Upright
7	Bright Upright
8	Rock Piano
9	Ragtime Piano
10	Bright Forte
11	SA Piano 3
12	70's E.Grand
13	Magical Piano
14	Harpsichord
15	Harpsi 8'+4'

E. Piano

#	音色名
1	1976SuitCase
2	Tine EP Lite
3	ModifiedDyno
4	VR EP 1
5	Wurly 200
6	Pure Wurly
7	Phase EP Mix
8	80's FM EP
9	MetalicEP Ex
10	SA E.Piano 1
11	SA EP1 Stack
12	SA E.Piano 2
13	Tremolo EP
14	EP Belle
15	BrillClav DB
16	BrillClavWah

Strings

#	音色名
1	Chamber Str
2	String Exp
3	Full Strings
4	Strings forl
5	Epic Strings
6	Rich Strings
7	Orchestra
8	Harpiness
9	OrchestraBrs
10	SymphonicStr1
11	SymphonicStr2

Organ

#	音色名
1	B.Organ Slow
2	Pipe Organ
3	Nason flt 8'
4	Combo Jz.Org
5	Ballad Organ
6	ChurchOrgan1
7	ChurchOrgan2
8	Gospel Spin
9	Full Stops
10	Mellow Bars
11	Lower Organ
12	Light Organ
13	Animal Mod
14	Surf Monkeys
15	Rising Sun

Pad

#	音色名
1	Super SynPad
2	Choir Aahs 1
3	Choir Aahs 2
4	D50 StackPad
5	Legend Pad
6	Voice of Hvn
7	New Jupiter
8	ChordofCnada
9	JP8 Strings
10	Air Pad
11	Boreal Pad
12	JP8 Hollow
13	Soft Pad
14	Solina
15	Tron Strings

Other

#	音色名
1	Super Saw
2	Trancy Synth
3	Flip Pad
4	D50 Fantasia
5	D50 Stac Hvn
6	D50 FuturePd
7	D50 DigiNDnc
8	EQ Lead
9	DelyResoSaws
10	StrawberyFlt
11	Jazz Scat
12	Ac.Bass wRel
13	Comp'd JBass
14	A.Bass&Cymbal
15 ～ 23	(8-drum sets and 1 SFX set)
24 ～ 279	(GM2 Tones)

ピアノに保存される設定

項目	説明	「レジストレーション」に保存される設定 (P.14)	「メモリー・バックアップ」で保存される設定 (P.16)	自動で保存される設定
	選んでいる音色 (スプリット演奏時の左手音色、デュアル演奏時の音色 2 を含む)	●		
	デュアル機能のオン/オフ	●		
	スプリット機能のオン/オフ	●		
	パート・ボリューム	●		
Split Point	スプリット・ポイント	●		
Right Shift	右手音色のオクターブ・シフト	●		
Left Shift	左手音色のオクターブ・シフト	●		
Tone 1 Shift	音色 1 のオクターブ・シフト	●		
Tone 2 Shift	音色 2 のオクターブ・シフト	●		
Transpose	トランスポーズのオン/オフ、トランスポーズの値	●		
Ambience	アンビエンス効果の深さ	●	●	
Rotary Speed	ロータリー効果のうねりの速さ	●		
Modulation Speed	音の揺らぎの速さ	●		
Key Touch	キー・タッチ	●	●	
Damper Pedal Part	ダンパー・ペダル・パートの設定	●		
Center Pedal Part	中央ペダル・パートの設定	●		
Center Pedal	中央ペダルの機能	●		
Left Pedal Part	左ペダル・パートの設定	●		
Left Pedal	左ペダルの機能	●		
Reg. Pedal Shift	レジストレーション・ペダル・シフトの設定	※	●	
MIDI Transmit Ch.	MIDI 送信チャンネル	●	●	
Reg. Transmit Ch.	音色切り替え情報	●		
Reg. PC				
Reg. Bank MSB				
Reg. Bank LSB				
Headphones 3D Ambience	ヘッドホン 3D アンビエンス		●	
Hammer Response	ハンマー・レスポンス		●	
Metronome	メトロノーム (音量、音色、強拍)		●	
Master Tuning	マスター・チューニング		●	
Temperament	調律法		●	
Temperament Key	調律法主音		●	
Input/Bluetooth Vol.	インプット/Bluetooth ボリューム			●
SMF Play Mode	SMF 再生モード		●	
Display Contrast	ディスプレイ・コントラスト		●	
Panel Brightness	ボタンの明るさ		●	
	Bluetooth 機能のすべての設定			●
Auto Off	オートオフ			●
Equalizer	イコライザーの設定		●	

※ 「Reg. Pedal Shift」の設定は、レジストレーション・セット・エクスポートを実行すると USB メモリー内に保存されます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.24）。



指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド（型番：KSC-72、KS-G8B、KS-12）を使用してください（P.2）。



不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド（型番：KSC-72、KS-G8B、KS-12）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください（P.2）。

正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド（型番：KSC-72、KS-G8B、KS-12）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。



注意

移動するときの注意

本機を移動するときには以下のことを確認したあと、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。



- ・機器本体とスタンドを固定しているネジがゆるんでいないか、確認する。ゆるんでいる場合は、しっかり固定する。
- ・電源コードをはずす。
- ・外部機器との接続をはずす。
- ・譜面立てをはずす。

使用上のご注意

設置について

- ・鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- ・設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を变色または変質させることがあります。

鍵盤の取り扱いについて

- ・ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- ・シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって变色したりすることがあります。
- ・ひどい汚れを落とすときは、研磨剤が入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- ・修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復にしましては、補償も含めご容赦願います。
- ・当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- ・スマートフォン／タブレットなどのモバイル機器を本機に置いて使うときの注意
 - ・本機やモバイル機器に傷が付かないよう、端末の取り扱いには十分注意してお使いください。
- ・記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容をバックアップしておいてください。
- ・失われた記憶内容の修復にしましては、補償も含めご容赦願います。

- ・ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ・演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がかからないように注意しましょう。
- ・譜面立てを使用するときは、譜面立てに強い力を加えないでください。
- ・エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- ・抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

外部メモリーの取り扱い

- ・外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
 - ・読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - ・静電気による破損を防ぐため、取り扱い前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

電波に関する注意

- ・以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - ・本製品を分解／改造する
 - ・本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
- ・本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）や特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
 - ・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていることを確認してください。
 - ・移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等（たとえば、パーティションの設置など）についてローランドお客様相談センターにご相談ください。
 - ・その他、発生した問題についてお困りの場合も、ローランドお客様相談センターにご相談ください。
 - ・ローランドお客様相談センターへの連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- ・認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。

知的財産権について

- ・第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ・本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- ・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- ・本製品は、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-License 2.0 に基づき μT-Kernel ソースコードを利用しています。
- ・本製品は Jansson(<http://www.digip.org/jansson/>) ソースコードを使用しています。Copyright © 2009-2014 Petri Lehtinen <petri@digip.org> Released under the MIT license <http://opensource.org/licenses/mit-license.php>
- ・Roland, SuperNATURAL, Ivory Feel は、日本およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・MIDI は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ・文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。